

第38回横浜市都市美対策審議会政策検討部会議事録	
議 題	<p>議事1 旧市庁舎街区活用事業における外構計画について（報告）</p> <p>議事2 旧市庁舎街区活用事業における駅前広場とデジタルサイネージの活用について（審議）</p> <p>議事3 関内駅周辺における今後のまちづくり誘導の検討状況について（報告）</p> <p>議事4 山下公園通り周辺地区まちづくりビジョン（素案）について（審議）</p>
日 時	令和7年7月7日（月）午後1時02分から午後5時01分まで
開催場所	一般社団法人横浜みなとみらい21 プレゼンテーションルーム （横浜市西区みなとみらい二丁目3番5号 クイーンズスクエア横浜クイーンモール3階）
出席委員 （敬称略）	国吉直行、加藤光雄、鴨下香苗、真田純子、三輪律江、加茂紀和子、福岡孝則
欠席委員 （敬称略）	中島直人、山家京子
出席した 幹事・書記	<p>書 記：松本 光司（都市整備局企画部長）</p> <p>古櫛山匡和（都市整備局地域まちづくり部長）</p> <p>馬場 明希（都市整備局企画部都市デザイン室長）</p> <p>立石 孝司（都市整備局地域まちづくり部景観調整課長）</p>
関 係 者	<p>【議事1】</p> <p>関係局：島田浩和（都市整備局都心活性化推進部都心再生課担当課長） 松井綾子（都市整備局都心活性化推進部都心再生課担当係長）</p> <p>事業者：三井不動産株式会社</p> <p>設計者：株式会社ランドスケープ・プラス</p> <p>【議事2】</p> <p>関係局：島田浩和（都市整備局都心活性化推進部都心再生課担当課長） 松井綾子（都市整備局都心活性化推進部都心再生課担当係長） 桂 有生（都市整備局企画部都市デザイン室デザイン調整担当係長）</p> <p>事業者：三井不動産株式会社、株式会社ディー・エヌ・エー</p> <p>【議事3】</p> <p>関係局：島田浩和（都市整備局都心活性化推進部都心再生課担当課長） 松井綾子（都市整備局都心活性化推進部都心再生課担当係長） 早田光孝（都市整備局都心活性化推進部臨海部活性化推進課長） 小島 類（都市整備局都心活性化推進部臨海部活性化推進課担当係長）</p> <p>【議事4】</p> <p>関係局：早田光孝（都市整備局都心活性化推進部臨海部活性化推進課長） 小島 類（都市整備局都心活性化推進部臨海部活性化推進課担当係長）</p>
開催形態	公開（傍聴者：2人）
決定事項	<p>【議事1・2】駅前広場のデジタルサイネージの審査体制をつくることについては了承したが、外構空間とのバランスや、照度や輝度の調整の方法等を整理し報告すること。</p> <p>【議事3】「まちの価値を高める取組」を地域の人や小規模事業者なども取り込んで地域にどのように発展させていくか、といった視点で取り組む。</p> <p>【議事4】山下公園らしさを増やし、エリアごとの具体的なイメージが湧くような工夫など、まだ足りない部分は今後検討していくことがわかるよう、原案を取りまとめること。</p>
議 事	<p>1 開 会</p> <p>（国吉部会長）</p> <p>まず、会議の公開について、事務局から説明をお願いいたします。</p> <p>（馬場書記）</p> <p>本日の部会については、公開とします。</p> <p>2 議 事</p> <p>議事1 旧市庁舎街区活用事業における外構計画について（報告）</p> <p>（国吉部会長）</p> <p>それでは、議事に入ります。議事1の旧市庁舎街区活用事業における外構計画についてということ</p>

です。よろしくお願いします。

議事 1 について、担当課および事業者から説明を行った。

(国吉部会長)

本件は、審議ではなく報告事項となっているのですけれども、前回の政策検討部会で議論されたり、その後、指摘されたりしたこと等を踏まえたまとめになっているということで、事務局の都市整備局からは一定の評価はできるという内容だったと思いますけれども、特に今の報告について何かご意見等がございましたら承りたいと思います。付け足しますと、私は前回欠席していたんですけれども、景観アドバイザーという立場で本件は都市整備局と一緒に議論してまいりましたので、ほぼ政策検討部会に出たのと同様の視点になっております。

最後の使い方というのがやはり議論になるかと思うんですけれども、まだまだこれは育てていかなければ駄目なことがあって、あまり確定的なものは言えない。あるいは、近隣の M I C E ・広場管理事業者というの、なかなかまだ目立ったものはないので、気持ちとしては、そういうのができたときは連携しようということかなと思いますけれども、あるいは、そこも含めたこの地域全体の運営グループというのができるかどうかとか、そういうことも見えない状況ではあるんですけれども、方向としてはいいのかなと思います。特にランドスケープの点が多かったんですけれども、代表して、まずはランドスケープの専門家に発言をしていただきたいのですが。

(福岡委員)

ご説明ありがとうございます。今日ご報告いただいた 4 点に関しましては、前回の指摘事項を踏まえて非常に細かく検討されて、方向性としてはいいんじゃないかなと思いました。

私から、気になった点としては、8 ページ目の重層的な緑の 3 階部分はパブリックアクセスがあるかどうかということです。もともとこの街区自体はかなり公共的な性格が強い街区でしたので、この 3 階は割と、アクセスによっては公共的な利用が限られてくるのかなと思いましたけれども、そこが 1 点、気になった点です。

あとは、今、国吉部会長がおっしゃっていた最後の仕組みに行く前にもう一つだけ。11 ページですかね。こちらの市道山下町 7 号線に面した広場のつくり方に関しては、市道山下町 7 号線の位置づけ自体がどうなるかということで大分左右されるのかなと思いました。こちらを暫定的に止めて一体的に活用するみたいな話があったように思うんですけれども、こちらは今回の対象範囲外ではございますけれども、この市道山下町 7 号線の道路としての、または広場としての位置づけといったものを、もし横浜市のほうから補足があればお聞きしたいです。

あと、22 ページ、23 ページですけれども、先ほどご説明がございました第三者利用イメージですかね。22 ページの話と、前回の (4) の中で、地域の方や第三者の方もということで、この 22 ページまでですと、地域の方とか、もう少し公共的な性格がある利用みたいな人たちに対しては、まだちょっとカバーできていないのかなと思いました。ですので、23 ページのイベントですかね、この街区全体で商業的な利用やプログラムを打っていくための体制はできているのだと認識はしましたけれども、例えば、公共的な性格があるイベントであるとか、市民が使えたりとか、それから、地域でここをといたときにどういう体制でこれを受け入れていくのかなというところが、この 23 ページの組織体制からはまだ少し見えてこないかなと思いましたので、将来的に街区全体で協議会を立ち上げていくのか、特に広場全体の、広場と道と様々な公共空間が点在していますので、それらを束ねて大きな方向性を出していくような組織体みたいなものは、今後まだ少し検討の余地があるのかなと思いました。いずれにしても、公共的な利用や性格をどうやって受け入れていくのか、それが一つ鍵になるかと思いましたが、その点、気になった点を申し上げた次第です。以上です。

(国吉部会長)

必ずしも全て答えがあるわけではない内容もありましたけれども、事務局及び事業者の方から、今の福岡委員からの発言に対して何かお答えできることがあったらよろしくお願いします。

(三井不動産株式会社)

1 点目に頂きました、3 階部分のパブリックアクセスがあるかというお話かと思います。こちらにつきましては、今、右下の図面で映っているとおり、L V A 棟ですね。L V A 棟の部分の屋上に関してはパブリックとして開放し、皆様に来ていただけるスペースという形で計画しております。右上の部分、行政棟のところになりますが、こちらについては比較的限定的な運営をしようという状況ではあるものの、イベント等ですね。自由には来られないんですけれども、イベントで一般の方も来

られるようなものとかも計画して進めていこうという状況になっております。1点目については以上となります。

2点目の7号線につきましては、都心再生課からご説明いただこうと思っております。

先に、3つ目の第三者利用イメージですね。こちらについては、広場広報連携の具体というところかどのような形になるのかというご質問の趣旨かと思っております。こちらに関しましては、広報連携のみしか今書かれておりませんが、将来的にはエリアマネジメントの、我々の旧市庁舎街区の組織が立ち上がったときに、連絡会という形で、いわゆる意見交換会みたいな形ですね、そちらで外部の方たちとも意見交換をしつつ、ただ、広報連携と書きちゃったので簡略化し過ぎていたのはあるかと思うんですけども、周りに対して私たち事業者側からもアプローチしていった、連携をどんどん深めていくという形で考えております。

(福岡委員)

今の23ページに関しては多分、形状として、エリマネ組織、協議会、財団、いろいろな形があるんじゃないかと思います。また、その中で組織としてお金をどうするのかという話と、ただ、この中で街が公共性を高めるためには、事業者だけで全部この街をマネジメントしていくということに加えてどうやって公共的な性格を高めていくかというところで、そこにどうやって参加できるかという余地を残しておく必要があるんじゃないかなと思いました。ですので、これは、この事業単体で決められることではないと思いますけれども、継続でぜひご議論いただいて、都度そこが深化していくといいのかなと思いました。

(松井係長)

先ほどの2番目の説明をさせていただきます。資料1-2の11ページをご覧ください。11ページの右側に図面がございまして、青い広場状の下の方が市道山下町7号線という形になっております。基本的に、矢印が点々で書かれているところがあるかと思いますが、その部分については歩専化するような形で今、計画しておりまして、隣の敷地までの間は全て歩道になるという形になっております。一部、左側で少し濃いグレーの部分があるかと思いますが、こちらが隣にできる交通広場の車道部分になっておりますので、基本的には歩専化した部分とうまく連携しながら、全体的に公共空間も道も一緒に併せて広場活用していけたらなと思っておりますのでございます。

(福岡委員)

この11ページの青枠で囲われている、網分けされているエリアが、将来的にはこの茶色の点線の矢印がついているエリアも薄く含んでいくということで、今描くのは難しいと思うんですけども、この青点線から茶色い矢印が通っているエリアも青く薄く塗っていただいて、そこで一体的な活用をしていくということが、少し計画や考えとして残っていくことが大事かなと思いましたので、これから先の話ではありますけれども、それによって多分、この歩行者専用道路の性格が変わっていつてしまう可能性があるのも、そこら辺は今考えられていることが少し出てくるといいかなと思った次第です。

(国吉部会長)

今の点については、交通広場は交通局等が運営・管理するんですかね。計画する主体が、いずれにしても交通局あるいは一部当局が関与するかもしれませんけれども、そういうところになるとしますし、民間街区についてはまた別の事業主体が入ってくるわけですけども、今回のプロジェクト側として、この2つの施設計画に対して提案はしていいと思うんですよ。本当はこうしてほしいというようなものをぶつけて、それを都市整備局が調整していくみたいなことがあって、アンタッチャブルじゃないと思うので、そういうことによってお互いの連携が図られていくので、その辺、ぜひ進めていただきたいと思います。おおむねの方向としては、これまで評価してきた流れの中で、今のところについては、将来の動向に沿って柔軟に対応できるような、あまり硬直した計画にしないということやってきてもらっているので、この方向でよろしいんじゃないかなと思います。

報告事項ですのでこの辺にしたいと思うんですけども、どうしてもという発言があったら。どうぞ、真田委員。

(真田委員)

今日、内容としてはなかったんですけども、前回、ここが駅前広場ということで、降りた人がどういうふうな動線をたどるのか、広場を楽しみに来る人だけじゃないので、そういう人たちがどういうふうな動きをするのかということも考えてほしいということと言ったと思うんですけども、それについて答えがないなと思いました。

もう一点は、最後のマネジメントの説明のところ、いろいろ考えてあるとは思うんですけど

も、その中で、こういう仕組みをつくってより活用していくという説明があったと思うんですけども、もともとここは落ち着いた場所にするということだったと思うので、にぎわいもありつつ、でも、歴史を感じられる落ち着いた場所にするということだったと思うので、そういう最初のコンセプトと活用の関係というのをどのように理解しているのかということについては、ちょっと説明が必要ではないかと思いました。

(株式会社ランドスケープ・プラス)

今回、1959年に庁舎ができたときに植えられた14本の木ですね、これが私どもとしては一番の市民に対する財産だと思っておりまして、その中でも一番樹形のいい樹木を、先ほど出していただきましたLVAの前の木として、工事中も工事関係者の皆さんに注意していただいで残しております。ここがちょうど関内駅を降りたときに、階段から下りた真正面に出てくる場所でございます、説明の中で言葉が足りていなかったんですが、まずここを待合の場としてぜひ使っていただけないかと考えております。ここを起点にして、横浜スタジアム、横浜公園に行かれる方の軸線を斜めに切ったり、将来的に交通広場あるいは隣接する民間開発のほうに行かれる方々へのユニバーサル動線というのでしょうか、織り成すというテーマでやっているうちの、足を伸ばしていけば行きたい場所に行けるといところを最短ルートで、この駅前を起点につくらせていただいているといところ、公共性あるいは市民の方々が分かりやすく使っていただく、あるいは既存の非常に葉張りのある大きな木の下に滞留空間をつくっておりますので、今日のような非常に暑いときに過ごしていただく、そういったところに注力して整理してまいりました。1点目は以上でございます。

(三井不動産株式会社)

2点目のご指摘は、落ち着いた場所というもののにぎわいをどう両立した考え方をしているかというご質問でよろしいでしょうか。なかなか似て非なるものといところは確かにあるとは思っているものの、いろいろとここのプロジェクトに関しては、特性としてはハレの日、ケの日という形で、イベントが多々周りでやられている場所でもあり、イベントがないときには落ち着いたイメージのある場所でもあり、それを両方とも両立できるような場所を計画していこうといところで、どちらかというのを正直、すばつと言え計画にはなっていないので、どちらになったとしても対応できるような憩いのスペース、それと憩いを併せ持った広場をつくっていこうといことで、ちょっとうまく説明になっているか分からないんですが、多様性という形の中で何でもはまってきて、皆様が憩い楽しめるいところを考えてつくられたというご回答をさせていただければと思っています。

(国吉部会長)

真田委員、いかがですか。

(真田委員)

そんなにじっくりはきていないのと、あと、1個目のほうも、イベントがあるときに、ただ移動したい人と干渉しないのかとか、そのあたりのことが聞きたかったということではあります。

(三井不動産株式会社)

そこにつきましては、イベントが行われる想定パターンというのを、今日の資料にはないんですけどもつくっております、皆さんの通常動線、一般の方の動線が阻害されることなくイベントを活用していくという検討もさせていただいておりますので、そこに関しては、ご心配された内容は再度確認した上で進めていきたいと思っております。

(国吉部会長)

マネジメント・使い方の体制というのが23ページにあるんですけども、この中で、いろいろな広場管理、広場・デジサイ調整役とかあるんですけども、今の駅前の動線とかそういうのも含めてトータルで誰が、ここの部分部分の管理者はいるんだけど、全体としては誰がマネジメントしていくのかというのがちょっと分かりにくい。それぞれが突出してやっているような感じもしなくはないので、その辺をうまく、ここでは整理できていないかもしれないんですけども、今日結論がなくともいいんですけども、ばらばらにならないように連携してトータルでうまくいくようになっていないとまずいと思いますので、その辺は全体の体制の中で、旧市庁舎街区事業者の団地管理組合というのは、これはちょっと違うんじゃないかと。運営なのか、建物の施設管理、マンションなんかの管理組合と同じような、そういうふうにも見えたりするので、ここ全体の魅力とか活力とか、あるいは市民へのサービスとか、この街区のコンセプトを維持し続けるトータルのマネジメントというのは誰がやるんだろうというのがちょっと見えないところがあるので、その辺の整理を今後進めていってほしいなと思います。

(三井不動産株式会社)

今のご回答のほうもさせていただこうと思います。こちらの組織表みたいになっているものは、実際の実務として運営がどう動いていくのかという説明において、C社という赤いところが真ん中になっているんですが、大元としては、今、国吉部会長がおっしゃられたとおり、旧市庁舎街区の事業者、いわゆる団地管理組合ですね、こちらが頭になってC社に業務委託をして業務を行っていただくという形になっているので、最終的な決定権者というところは事業者が全て握っているという状況になりますので、そちらは事業者のほうでちゃんと差配をして動かしていくというところでご認識いただければと思っています。

(国吉部会長)

分かりました。後ほどデジタルのほうの議論がありますけれども、こうなると、デジタルサイネージ調整役が全体の調整をするみたいな感じになって、その視点だけで全体が支配されるということにならないかちょっと危惧するんですが、それは大丈夫ですかというような感じがあるので、後ほどまた関連して議論していただければいいと思います。今の説明だとちょっとその辺がどうかという感じもしました。加茂委員、どうぞ。

(加茂委員)

今日初めて見て、今までも議論の中にあっただのかなとも思ったんですけども、尾上町側に駐車場の出入口が2つあって、1つは両方向、1つは反対方向で、パースは逆方向に車が向かっているんですけども、この辺りは緑の軸線として人が流れていくという前提であると、2つも出入口があって、休日とか平日とかでも全然車の出入りが違うと思うんですけども、そのあたりのコントロールをどうされるのか。それと、車も結局入る方向が、球場側からの入り口で道路をコントロールしないといけないと思うので、車が来ると周りを迂回してそっち方向から車が入ってくるみたいな、そういう計画になっているかと思うんですけども、人の流れと車の直行部分、これをどう考えられるのか。

あと、緑の軸というのがずっとあって、向こう側からずっと流れていって山下公園に抜けていくというその軸。これが最初のイメージとしては、ここの場所を横断するような形で行っているんですけども、それが今回はあまり表現されていない。こういう織りという縦横ではあるけれども、そこを斜めに突っ切っているようなもの。それから、空中で公園のほうに向かう、多分、2階か3階ぐらいからのレベルで歩道が連なっていると思うんですけども、そこに行く道というか、駅前から出たってLVA棟を上って行って、屋上庭園に行ってそこからまた向こうに行けるのかどうか。私がちょっと理解していないところが多いかと思うんですけども、その辺を説明いただけるとありがたいなと思いました。

(三井不動産株式会社)

まず1点目、駐車場出入口に関しましては、神奈川県警察、所轄等との協議をしております、交通負荷検証等も行いながら、影響がないというところを双方確認しつつ進めております。詳細を言うと、右側の、今、図面上映っている場所については出入口という形になっておりますが、一般車両と搬入車両の入り口プラス搬入車両の出口という形になっております。なので、そこに関しましては、もう一度言うと、搬入車両は出入口、一般車両は入り口となっていて、一般車両はそのまま敷地内をぐるっと周遊し、左側のところから一般車のみ外に出ていくというような計画になっております。こちらに関しては、一般車は通常、左上の交差点に近いところでは安全上支障がないというのは確認が取れたんですが、搬入車両のような大きい車両は交差点に近いと危険という話があって、出入口が右側に来ているという状況になります。そこについての実際の誘導も、警備員を今、入り口側で2名、出口側で3名という形でかなり大人数での誘導をして、通行者の皆様にご迷惑がかからないような運用を心がけて開業していくという計画で進めておりますので、ご安心いただければと。逆に言うと、あまりにも人が多くてご迷惑をおかけしたときには、誘導計画を再度見直すことも、私たち事業者としてすべき内容になりますので、現時点ではそういうご説明という形になります。

2点目です。2点目は動線の話かと思います。まず、3階のLVAの屋上というのが単体になっているので、3階の屋上ではそこで行き止まりという形になるのですが、その下の2階部分に下りると2階部分が、一番左からいうと、将来できる港町の再開発からつながったこの2階のデッキからずっと施設の中を通過して、今度はこの行政棟の間も通過して、そのまま上に上がっていきます。横浜市のデッキも通ってスタジアムの2階のデッキにつながるという形で、2階の回遊動線につきましては、横浜スタジアムからずっと敷地内を通過して将来的にはつながっていく動線を計画しているという状況になっております。1階レベルにつきましては自由に動ける動線があって、それぞれそこに向かって上がっていくという動線計画になっております。

(加茂委員)

細かいようですけれども、パースの車の入り方向が違っているの、直したほうがいいと思います。

(三井不動産株式会社)

ありがとうございます。申し訳ございません。

(加茂委員)

それと、今回は前のに比べて車道幅とかも広がっているんですね。だから、警察とのやり取りで搬入のところが広がったということなんだと思うんですけども、結構通りがぶち切れている状態にあります。だから、仕上げとかも含めて、つながっていくという、そのあたりをちゃんとやったほうがいいんじゃないかなと思うのと、緑の軸線の、クランクしていくんだと思うんですけども、裏動線にならないように。あと、パースで見ると、やはり人は、エスカレーターもあるし屋上もあるから、何となく向こうにつながっていくんじゃないかと思うと思うんですけども、そのあたりは2階でもつなげられない何か理由があるんですか。3階のところに行っちゃったらつなげられないですけども、2階に行ったらつなげられるんじゃないかなんて思ったんですが、それは駄目ですかね。

(三井不動産株式会社)

基本的には、2階はそれぞれ建物構成上全てがつながっているような計画になっておりまして、大きくいうと、くすのきテラスという左下の建物があって、LVAという建物があって、上に高層棟、右側に行政棟という縦長があり、一番右にみなとテラスという形の棟構成になってはいるんですけども、これはそれぞれ2階レベルで全てがつながっている状況になっております。

(加茂委員)

中を通れば、エスカレーターで上っても、あっと思ってまた戻らなくてもそのまま行けるということですか。

(三井不動産株式会社)

おっしゃるとおりです。

(加茂委員)

分かりました。

(国吉部会長)

ほかにございますか。これで終えたいと思います。幾つかご指摘・ご懸念のところもありましたが、今後の検討の中でまた進めていただければと思います。どうもありがとうございました。

議事2 旧市庁舎街区活用事業における駅前広場とデジタルサイネージの活用について（審議）

議事2について、担当課および事業者から説明を行った。

(国吉部会長)

ありがとうございました。ここから審議が始まるんですけども、内容が非常に濃いので難しいと思いますけれども、各委員からご意見を頂ければと思います。

(馬場書記)

今日ご欠席いただいている中島委員、山家委員からご意見を頂いていますので、そちらを先に読み上げさせていただきますと思います。

まず、山家委員からでございます。自主審査組織にアドバイザーが2人いる体制はよいと感じる。そのうち1人はデジタルサイネージに詳しい人がよいのではないかと。また、審査基準につきましては、目指すべき姿を共有しながら、現状に合わせて改定していくとよいのではないかとというご意見を頂いております。

中島委員からは、審査体制についてよく考えられており、問題ないというご意見を頂いております。以上でございます。

(国吉部会長)

欠席の委員からそういったご意見がありまして、ほかの委員からご意見を頂ければと思います。いかがでしょうか。真田委員。

(真田委員)

いろいろ考えられているとは思ったんですけども、1つは、単純なというかあれなんですけれども、ハレとケという言葉を使っているのに、ハレとケの割合が、ハレのほうが大分多いとい

うのが、ハレとケという、ケのほうが普通でハレのほうが少ないというのが普通だと思うんですけども、これはハレとケのイメージとは違うなというような感じがしました。じゃあ悪いかというと、仕方ないところもあるのかなとは思うんですけども、だとすると、誤解を生んだりするので、ハレとケという言葉を使わないほうがいいんじゃないかなと思いましたし、イベントによってももう少しやり方を変えられるんじゃないかというような気がしました。もう少しおとなしいようなイベントもあるだろうし、やっぱりみんなで盛り上がるぞみたいな、スポーツイベントとかはそうだと思うので、イベントの内容によってももう少し運用の仕方が変わってもいいのかなというような感じがしました。

あと、横浜スタジアムの話もありましたけれども、それで試合の前とかに皆さんが集まるとかというのがあるのかもしれないんですが、イベントの後はみんなが街に広がって食事をして帰ったりとかというのがいいと思うので、ここの駅前で盛り上がるようなことは本当はしないほうがいいんじゃないかなと。ここに帰ってきたら何かいいぞとなるとみんな駅に来ちゃうので、何かそのあたりの、どういう人の流れをエリアとしてつくり出したいのかというようなことは、もう少し考えた上での運用を検討するのがいいかなと思いました。

(国吉部会長)

なかなかいい指摘だったと思いますけれども、福岡委員。

(福岡委員)

今日の報告事項でありました外構のものだと、14ページがちょうどこのアリーナの前、ライブの話ですよね。ここの駅を降りたときに、先ほどのご説明では、残した14本のクスノキを最も大切にしていって、そこで落ち着いた樹下の滞留空間があるという話と、それから、今日ご説明があったサイネージ、特にサイネージに特化した話になってしまっただけなんですけれども、そこのバランスをどうやって取るのかなというところが難しいと思いました。ですので、今日のご説明の中では、この街区自体、例えば7ページ目や6ページ目を見させていただいた中で、全体的にどれぐらいの照度とか輝度なのかということを一律に設定するのは難しいと思うんです。なんですけれども、上限であるとか、点滅の回数とか、あとは、この街区全体で、ライブアリーナの1階からかなり漏れ光があつたりすると思いますし、外構の照明のご説明が今日なかったんですけども、外構の照明は多分少し落ち着いた、テラスの周りにライン照明を入れるとか、割とささやかな感じになっていると思いますけれども、かなりの漏れ光があると思いますし、床材がグレーなので、結構光を反射すると思うんですね。ですので、そういったことでトータルに考えたときに、このサイネージ計画は、この外構計画をちゃんと尊重した計画になっているのかどうかみたいなことは、きちんと世界観としてご議論いただきたいなと思います。そこは多分、代表事業者とか企業の方たちの中できちんと議論することが大事かと思うんですけども、樹木とか、せっかく落ち着いた時間の軸を継承して外構をしつらえているんだけれども、駅前に降りたら結構派手な空間で、それが全部消されてしまっただけじゃないと思いますので。

そこでヒントとして申し上げると、ハレとケというのもあるんですけども、さっき真田委員がおっしゃったように、6ページ、7ページの中で、デジタルサイネージに全てを頼らずとも、例えば下にテントとか、プレイス・ブランディング。ブランディングにもいろいろな種類があると思っていて、全部映像で没入させなくても、場所を使ったブランディングというののもできると思うんですね。ナイトマーケットとか、別にそんなに照明は要らないので、もっとささやかなものでもそういうものが成り立ったりします。これはだから、6、7ページのあたりの運営とか、ハレとケの間のいろいろなプログラムを年間で組んで、それをシミュレーションしたときに、どれぐらいだといいいのかという世界観が外構と相まっていないと、多分この駅前を降りても同じような風景になってしまうので、そこをコントロールしていく中で、やはり横浜市のほうでも書いていただいている駅前広場活用と連動した運用体制の中で、専門の2名の方がお入りになるというのはいいと思うんですけども、この中でどういうふうにして、サイネージそのものやコンテンツそのものの審査だけではなくて、広場全体、2階分の建物も含めた世界でどうやってそれを規制したり、いい方向に促していくのかというところをやっていかなくちゃいけないと思うんです。だから、それを多分、サイネージの部会と、外構と事業者の方と合わせて議論しなきゃ、そのときに、もしかしたら輝度とか照度の上限とか、ある程度それは測ることができるので、その中できちんと判断していく。あと、照明の色もあまり議論がなかったですけども、ほかの案件ではかなり照明の色とか議論して、ここはそれに該当するエリアではないんですけども、そこでやはり関内らしさとか駅前というのは、継承する部分とこれからつくっていく部分がありますので、そこのバランスが崩れるとせっかくの街区の魅力というも

のが半減してしまうと思いましたので、そのあたりはすごく大事な点かなと思います。ですので、そこら辺がうまく運用の中で、ある程度の指標とか、難しいんですけども、何ルクス以上とかって話だけではなくて、そのパターンを想定した上で少しずつ考えないと、審査というものも難しいかなと思います。以上です。

(国吉部会長)

ほかの委員、いかがでしょうか。鴨下委員。

(鴨下委員)

建築と異なって直しが利くところなので、前から言っているようにトライ・アンド・エラーで、ぎちぎちに最初からやるのではなくて、ぎちぎちにやってしまうと面白いものも生まれないと思うので、規制規制ではなくて、そういうところでやっていきながらいいものをつくっていくというのが必要なかなと思いました。今回、規制の対象じゃないというところで、市としての関わり方もきちんと考えなきゃいけないというところがあると思うので、例えば表現の自由だとか営業の自由とか、憲法で保障されているところなので、その関わり方が不当なものとならないように応援するという形で、内容とかに入ってしまうと本当に検閲とかの問題になってしまうので、いいものを皆さんでつくっていくと。横浜市も応援していくというような、そんなスタンスで活用していただきたいと思います。と思っています。とても期待しているところなので、頑張ってください。

(国吉部会長)

ほかの委員、いかがですか。加藤委員、どうぞ。

(加藤委員)

昨年の9月ぐらいからこの会議に出ているので、前段の部分を聞かせていただいて、そのときに、今回の駅前のプロジェクトがいかに横浜にとって大事なのかという話を最初にしたのがこの後に続くんですけども、再開発をやる場合、歴史を尊重し、そして、それを表現しながら、また、自然を確保し、落ち着きがある中で、しかし、駅前なのでにぎわいも創出してということで、苦肉の策でハレとケという言葉を使ったんだろうと思います。本当はハレの日は少ないだろうと言っていますが、さすがに駅前ですから、あまりににぎわいが少なくなるようなことになるとなかなかうまくいかないと。景観をつくる上で人がどう流れるのかとか、いろいろなことについては専門家の方々にお任せしてよりよいものをつくっていただきたいのですが、やはりこの中で企業広告が映し出されるときに、皆さんも心配されると思うんですね。ちょっと議論がありました内容の中での、映像の中身の問題とか。これも先ほど皆さんご意見があったように、審査基準とか運用基準の中で明確にされればいいと思いますし、お二人アドバイザーが入りますから、非常にちゃんとしたものができることも期待しています。

表の、皆さんが一番分らない部分でしょうか。イベントの、例えば真ん中にC社というのがあって、映像関係をつくる方、イベンターとしてイベントをつくる方、それから管理ですか、メンテナンス等々をする方、それを統合的に中心になって4社か5社の方がやられるということで、そのところが一番大変だと思うんです。ここで先ほどの広告の話に戻るんですが、やはり大分経費がかかると思うので、その経費を企業スポンサーの、いわゆる映像を提供することによってお金の収入を得て、それを管理費に回す形になると思うんですが、ぜひそれはいい映像をつくっていただいて、広告代が的確に入る、そのお金をどう使うかということをやっといただければ、非常に動画も生きてくるのだと思うんです。

その中で、先ほど若手、学生ですか、の方々の関内らしさを追求してみたいなことが書いてありましたけれども、これはやはり若いクリエイターを育てるんじゃないかと思うんですね。関東学院大学ですか、大分来られるということもあって、そういう映像をつくるチャンスをこういうところを与え、その方々が、関内らしさの創出の基盤となるということも書いてありましたけれども、関内らしさって何だろうと考えたこともあって、もしかすると我々よりも若い方々のほうが分かっているのかなということもあり、若いクリエイターが育つようなことで、映像のところでの参加もやっていただきたいと思います。

あと、ハレとケの間の中に、今は静止画ということになっておりますが、その静止画の部分が今後は動画でもいいんじゃないのという議論があることを期待しています。その部分はぜひ残していただきたいと思います。以上です。

(国吉部会長)

ほかによろしいでしょうか。じゃあ、私からも発言させてください。いろいろトライしながらやっていくというのはいいと思うんですけども、まず、映像の質をどれだけ上げられるかということだと思うんですね。私は、先月10日間ぐらい韓国に行っていたんですけども、釜山から大邱、それか

らソウルも含めて、非常にいろいろなところでデジタルアートといいますか、映像が出ている。そのクオリティーがものすごく高いですよ。ソウルの大きな駅の前に植物園がありまして、その中にLGの美術館があるんですが、その壁面にゆったりとした映像が流れているんですけども、それはものすごくクオリティーが高くて、韓国はやはりデジタル技術というのが非常に盛んでアーティストをどんどん育てているという感じがあって、そんなところを一方でやりながら、そこにやはり、必ずしも、だから地域のPRだけをするというんじゃないくて、映像を楽しめるような、そのぐらいのクオリティーを持って、美術作品ぐらいのアートも入ってくるというぐらいのものをいかにつくれるかというのが大事だと。それをどうやってつくれるんだというのが大事だと。例えば横浜トリエンナーレとか大きなイベントなんかもあるわけですから、そういうときに連動して、あるときはここにデジタルサイネージというよりもデジタルアートがゆっくりと、こう。それは、ですから、動画というよりもゆっくり動いているとか、そんな話も含めて取り組んでもらいたいと。

それからもう一つ、先ほど真田委員もおっしゃったように、ハレとケのバランスが違うよねみたいな話があって、にぎわいをつくりたいというのはあるんですけども、もともとここにはこういったものをつくるという予定でLVAをつくったわけじゃなくて、後々、少しこういったものもつくっていったらどうかという話になってきたわけですね。当初の計画にはなかったわけです。そういう中で、ここは株式会社ディー・エヌ・エーが運営することで、スポーツイベントとも連動した発信をするということはあると思うんですけども、今日のハレの部分を見ますと、やはりスポーツイベント系の情報発信といいますか、ものが圧倒的に多くて、この全体のプロジェクトでここに集まられた企業さんたちは、必ずしもそれだけではないと思うんですね。この街のこの集団の次の展開。このプロジェクトをコンペで行ったときは国際交流とか観光文化とかいろいろな視点があって、そういったことにチャレンジしてもらいたい企業なんかにも入ってもらっているわけで、その辺の情報もちゃんと発信するような、そういうことも育てていって初めて街区としてのよさになると思うんですね。ですから、この街区は全部スポーツイベントだけでにぎわいをつくるというだけではないということを確認して、それを組み立てる必要がある。ですから、映像の使い方というのはあると思うんですけども、その辺と、トライ・アンド・エラーということでやっていってもらいたいんですが、当面はハレは5割ぐらいにしておいて、やりながら少し、残りのところを何にするかという試行錯誤をしながら、場合によっては増やしていくとか、そんなことも工夫してはどうかということもあるかなと。例えば、市庁舎の後にOM07が入りますよね。私もOM07はあちこち、熊本によく行くものですからOM05を使っているんですけども、街を案内する工夫を彼らはやっているわけですよ。彼らの街の楽しみ方というのは、非常にヒューマンな手作りの旅を楽しむみたいなのところがあって、その辺のOMOの、星野リゾートの戦略とか、その辺なんかも連動したこの広場の使い方ではないと、いつ行ってもスポーツイベントばかり発信していると、OM07の顧客層とは違う雰囲気になってしまって、逆にそこは、せっかく星野リゾートが来たのにそういった客を逃してしまうんじゃないかみたいな感じがあって、その辺なんかも含めてお考えになって工夫してほしいということですね。だから、このハレということは、広場のにぎわいやイベントへの没入感の創出に挑戦しと言いますが、あまりそのイベントへの没入ばかりやっても困るなど。それはその時々でいいと思うんですよ。例えば午前中はなるべく静かにしているとか、午前中はほとんど毎日ぐらいいの状態、ケの状態でもちょっとゆったりとした映像が流れている程度にするとか、やはり広場ですから、いつも何かに巻き込まれたくないみたいな、ゆったりしたいみたいな人もいられるような、そういう状況も含めてあったほうがいいかなという感じで、その辺の構成をもっと考えるべきだと。

それともう一つ、そういったことを踏まえて3年ぐらい暫定的にやってみて、横浜市都市美対策審議会の政策検討部会でもう一回ちゃんと検証してみて、本当に関内の玄関口としていい情報発信になっているとか、広場の使い方とかランドスケープの使い方とか、その辺なんかも踏まえて全体を見ながらもう一回、もうちょっと工夫を横浜市都市美対策審議会から提案できるような、そういう部分も持っていたほうがいいんじゃないかなという感じがあって、これは意欲的なんですけども、ちょっと不安なところがあるので、その辺を後々もう一回見直ししながら前に進めるような工夫も必要ではないかという感じがしました。真田委員、どうぞ。

(真田委員)

先ほどの国吉部会長とか福岡委員の話にもあったように、地域の雰囲気だったり世界観みたいなものが大事にされるといいのかなと思ったんですが、一方で、この18ページの図を見ると、中心にあるC社というのが、イベントを派手にすればするほどもうかるような会社を中心にいるので、どうしてもイベントに頼りがちな、そういうインセンティブが働いてしまうんじゃないかなと思ったので、も

う少し地域の雰囲気を大事にするとか、エリアの価値を高めるみたいなことを目標にするような人たちが中心になるという組織のつくり方もあるのではないかと思います。

(国吉部会長)

ほかにご意見ございますでしょうか。では、どうぞ。

(株式会社ディー・エヌ・エー)

委員の皆様、いろいろご意見頂いてありがとうございます。ちょっとおさらいというか、改めて補足になりますが、デジタルサイネージを今回設置しますが、前回、昨年8月の議論でもありましてとおり、まず、駅前広場はどうあるべきかというところがポイントだと思っていますので、本日、スポーツのイベント等のお話をさせていただきましたが、国吉部会長からもお話があったとおり、国際交流であったり地域貢献の視点も踏まえて、イベントなり広場の在り方については今後議論を深めていきたいなど、改めて思っております。

また、ハレとケの割合につきまして、こちらは10ページ目で補足させていただきますと、昨年8月の横浜市都市美対策審議会に付議したときには、イベント中・前後のみをハレの時間としまして、このハレの日の朝と書いてあるところにつきましてはケの時間というふうに定義していたんですが、今回、新たにイベントのある日については、イベント感があるというところで、少し薄ピンク色のような形でにぎわいが少しあるような空間でもいいんじゃないかというところで今回ご提案していて、それも含めて274日となっておりますが、今までの議論も踏まえつつ、ハレの日の朝がケ的に居心地のよい空間であるべきとか、クスノキがある前提でどう見えるんだろうかというところについては、よくよく議論した上で、ハレの性質が強いのか、ケの性質が強いのか、どうあるべきかというのは、今後、自主審査委員会、組織も立ち上がりますので、その中で議論させていただければなと思っております。

(国吉部会長)

その自主組織委員会が、今のようなこの環境を踏まえた議論ができる体制なのか。企業の代表だけで集まっていますよね。ですから、それが本当に、先ほど真田委員からもご意見あったんですけども、その辺の工夫がどうなのかというのは、全体の運営に関してはいいんだけど、クオリティを議論するのが企業の代表の集団で大丈夫なのかというのがちょっと気になるんですが、事務局としてはどうですか。

(松井係長)

今回の自主審査組織に関しては、もちろん事業者の方が入っているところではあるんですけども、それに併せて、アドバイザーとして専門家の方ですとか、あと、横浜市もオブザーバーとして入るというところで、一番最初は、どういったものを目指していくのかというところから、事業者の方とお話をしながらつくっていくという段階かなと思っていますのでございます。特に今回、審査基準に関して目指すべき姿というものをつくったところが肝かなと思っております。駅前の広場の空間も含めてどういった空間をつくっていくのか、そのための演出としては何が必要なのかというところを議論しながらつくっていくのかなと思っています。横浜市も今回このような取組は初めてのことかと思っておりますので、関内にふさわしい玄関口としての在り方みたいのところから一つ一つ議論し、新しく、古いものも、今までの取組も含めながらつくっていくことを一緒にやっていきたいと思っております。

(国吉部会長)

分かりました。いずれにしても、アドバイザーにしても横浜市にしても、委員会の委員じゃないから、この構成から見ると、企業者の団体に決定権があるわけですよ。ですから、そういう状態でうまくコンセプトをつくれるかどうかというのが、この組織の欠点じゃないかと。その辺については、今後もっと工夫が必要じゃないかなと思います。アドバイザーと呼ばれる人たちが、こういった横浜市都市美対策審議会の議論をちゃんと踏まえた発言ができる人なのかどうかとか、その辺も重要だと思います。その辺を事務局としてはぜひ整理してほしいと。

これ以上議論をすると時間が足りないですので、やはりこの広場の価値を高めるという、そういう視点で今後とも工夫をしていってもらいたいと思います。これは全体の事業者、事務局の株式会社ディー・エヌ・エーだけでなく、三井不動産株式会社を含めた全体の事業者として考えていただきたいなと思います。よろしくお願いします。福岡委員。

(福岡委員)

1つだけ。その上で、デジタルサイネージの在り方を庁内でこれから、今は多分、規制とかガイドラインがないので、これからたくさん案件で、どんどん進化が速いので追いついていないとこ

ろがあると思うんですね。そこら辺をどうやってこれから考えていくのか、導いていくのかみたいなところは、議論も含めて、ここで得られたことをそういう横浜市全体の景観の課題にフィードバックしていくようなループも必要なんじゃないかなと思いました。以上です。

(国吉部会長)

それでは、今日は審議ですけれども、一部、やはり今後検討すべき内容があるということで、その辺を踏まえて、今後、事務局として全体の運営組織も含めて、それから、ハレとケの割合とかその辺も含めて検討を続けてください。以上で審議の結果とします。どうもありがとうございました。

議事3 関内駅周辺における今後のまちづくり誘導の検討状況について（報告）

議事3について、担当課から説明を行った。

(国吉部会長)

今後はこの地域のマネジメントといいますか、いろいろトライしながらやっていくということだと思います。私は昨日、みなぶんを通ってきました。半分ぐらいできているところで、どういうふうにするのかというのは見えない状態でしたけれども、ぜひうまく使っていただきたいと思います。全体についての検討状況の報告でしたが、事務局として、報告ですけれども、委員から何か聞きたいこととかありますでしょうか。もう十分ですか。

(小島係長)

まさに今、国吉部会長がおっしゃったとおり、ここの公共空間の活用の仕方というところから取組を進めていきたいという中で、事業者とどう継続してできるか、その辺は事業性とかも含め、あとは事業手法、制度とかも含めて検討を進めていければと思っています。地元の団体も関心を示している中で、ぜひ一緒に検討を進めていけるといいなと考えております。

(国吉部会長)

私からは、私は肩書なんですけれども、関内まちづくり振興会の顧問ということでボランティアで入っているんですけれども、関内の旧市庁舎街区なんかの整備を機に、関内のセントラルといわれるところのにぎわいづくりを進めたいというのは非常に大きな課題で取り組んでいるわけですし、みなぶんもいいんですけれども、関内のセントラルにどういうふうに、全てウォークアブルにするのがベストではないかと思っておりますが、そこのにぎわいづくりにこういった歩行空間、広場づくりとか、そういったものを発展させていくのかと。あるいは、公共空間だけでいいのか、民間の街区のうまく再編成も含めながら、ところどころ魅力的な広場をつくっていくとか、そういったことも踏まえて、ぜひ関内セントラルあるいは横浜BUNTAI、関東学院大学以外の大通り公園周辺の伊勢佐木町との間の流れとか、その辺をどうやってつくっていくとか、その辺にも展開する提案をやはりどこかで出したほうがいいと思いますよね。それは案でもいいから、何もないと動かないので、批判があっても何かいろいろな提案をしながらぶつけていく。民間にも関内セントラルの方々にもご検討いただくとか、そんなことも含めて、ここで書かれていないところもまだあるので、これを地域にどうやって発展させていくのかというところが少し見えるように、この中で検討いただきたいなと思います。ちょっとお願いですけれども。福岡委員。

(福岡委員)

資料ですと4ページ、5ページあたりが分かりやすいかなと思うんですけれども、このエリアマネジメント組織が立ち上がって、公共空間の活用をしていく中で実験をして、そこでこれからやることを考えましょうという、割と守りのスタンスもよく分かるんですけれども、多分、横浜市の役割としては、今後このエリアが、この赤枠以外が、薄いオレンジのところとか、それから緑の軸線、みなぶん辺りが、この中で既存のストックも生かしながら更新していくわけですよね。そのときに、どれぐらい公共空間の量と質を高められるかということを事業者から引き出し、かつ、このエリア全体のビジョンをつくっていくのかというところが横浜市の立ち回り方としてはすごく大事ななと思っています。そのときに、今日の街区の説明でもあまりなかったんですけど、緑で申し上げると緑量に関してどうなのとか、暑熱緩和に関してはどうぐらい今足りていてとか、どれぐらい日に影響受けなくても歩けるのかとか、人が本当にずっと外に居続けられるのかということと、滞留空間も、関内周辺はもともとあまり潤沢にあるわけではないんですけれども、そういうふうにして誰でもアクセスできる公共的な空間というものの魅力を、道もありますし、立体的な緑地もあるでしょうし、公開空地もあるでしょうし、そういったところを引き出しつつ、さっき国吉部会長が提案とおっしゃいましたけれ

ども、何かそういうビジョンを促すようなことができるように、その間を取り持つようなことが市の役割かなと思っています。ですので、この4ページ目の横浜市主体の働きかけによる機運醸成というところは、社会実験の様子を見ながら、イベントうまくいってますねという話ではなくて、それは自然にうまくいくような気がしますので、もう少し空間の話とか、あとはこのエリア全体のビジョン、プランというの、なかなかこれから何も起こらないところに絵を描くのは難しいと思うんですけども、そこで達成しなきゃいけないことみたいなのは多分、イベントリーとして出すことができると思いますので、そういうもの、機会が出たときに先に出して、条件としてそういうことを一緒に考えていけるような、何かベースになるようなものというのが必要かなと思います。ほかの国だと、これから開発が起きそうなところに役所のほうで模擬設計を全部して、こういうパターンで、ここが動いたら、これぐらいここでじゃあ脱炭素をやってもらおうとか、これぐらい緑量を入れる、ここでこれぐらいつくってもらおうということをあらかじめはじいておいて、表には出さないんですけども、そういう計画をしていますので、そこまでやらなくてもいいんですけども、そういうものをカードとして、何か起きたときに出せるように、そういう準備をしていくということが大事かと思いました。そういうことを内々のワーキングでしながら、全体のビジョンにそれがいいねということで乗ってきていただけるなら、それはそれに越したことはないので、この4ページ、5ページのあたりはエリアマネジメント組織をそういうふうにして使っていくという、割とポジティブなほうに振っていくということではできると思いましたので、そういう使い方が大事なんじゃないか。そうじゃないと、ただイベントの運用をしているだけで終わってしまうので、そこは横浜市の立ち回りとしては大事なかなと思いました。以上です。

(国吉部会長)

ほかの委員、いかがでしょうか。真田委員。

(真田委員)

エリアマネジメントということで、これから考えてはいらっしゃると思うんですけども、地域の小規模な企業の方とどういうふうに連携するかということが大事で、3ページに書いてある構成員というところだと、再開発する事業者だったり、結構大きいところばかりが入っているので、ここにどういふ地域の人たちが入るって、なかなか難しいような気がするの、そこは多分、横浜市の役割としてやっていく必要があるのかなと思います。そのあたり、再開発するところは当然、多分やると思うので、そうじゃない人たちをどれぐらい巻き込んでいけるかというのが今後は重要なのかなと思うので、そのあたりを意識的にやっていただきたいなと思いました。

(国吉部会長)

ほかの委員、よろしいでしょうか。それでは、報告事項ですので、この辺にとどめたいと思います。今後とも、街区のことについても少し踏み込んで、こういうネタも、やり方もあるんじゃないかというのを幾つか見せない、地域の人にだけ任せても多分動かないので、確実なものだけ慎重に出すのではなくて難しいのも、こんなもの可能性があるなというのをを出していただければ、地域の人もまた勉強できますし、ぜひその辺も含めて検討いただきたいと思います。よろしくお願いします。三輪委員、どうぞ。遅くなりました。

(三輪委員)

関東学院大学の前の広場は、今の話で言うと、スケールのちよっと大き過ぎる取り方をしていて、もう少し街区という、この辺りの断面的なところでどんなことが起こり得るんだろうみたいなことが、スケールのちよっとクローズアップしながら部分的に取っていくことをしたほうがいいかなと思っています。なぜそれを言っているかと。例えば、先ほど出ています民地がこうやって活用されるといいよというのが、一例を言うと、関東学院大学の前の広場というのが確かに広場的には使えそうになっているんだけど、実は使えていないですね。前回、景観でいろいろ見ましたよね。そのときに、セットアップされているんだけど意外に使えてなくて、割とエリアマネジメントの場になりそうなんだけど、うまくいきそうもない。これって多分、民地なので、そういうふうイメージして向こうとしてはできるかなと思っているんだけど、その小さな土地でさえもマネジメントする体制みたいなものが整えられにくいわけですね。1施設というか1団体だけだと。そうすると、そういうのを周りでどういうふうに使合えるのかみたいな話だったり、特にここなんかは結節点だったりするので、すごく重要なポイントなんですけれども、つくったら終わっちゃうわけですね。なので、そういうキープレースになりそうな場所というのが何か所かありそうですね。そこからちよっと絵を描いていきながら、まさにそれに関連する地権者とか関係者、あるいはその利用者になりそうな人たちみたいなものは先に少し押さえておくとか、それはやり方と

してはありかなと思っています。エリアマネジメントは、旗振ったらみんなが寄ってくるものではなくて、割と戦略的に持っていかなきゃいけないので、その辺は逆に市がある程度当たりをつけながら作戦を練っていかないと進まない。なぜなら、このエリアはこの絵だけでも相当広いので、どこから行くのみたいな話というのが、だから、総論的にはオーケーなんですけれども、本当に進めようと思ったら相当大変だとしたら、やはり順を追ってここからここからというのが、先ほどの旧市役所の広場もその一つだと思うんですね。だから、もしかしたらその辺の弾のつくり方というのを、もう少しスケールを大きくして検討していただいたほうがいいかなと思いました。以上です。

(国吉部会長)

確かに関東学院大学は、何か気楽に入れる雰囲気はないですね。

(三輪委員)

そうなんですよ。

(国吉部会長)

それでは、この件については報告事項ということで終わりにしたいと思います。

議事4 山下公園通り周辺地区まちづくりビジョン（素案）について（審議）

議事4について、担当課から説明を行った。

(国吉部会長)

まちづくりビジョン（素案）についてということですが、素案というと、正確には素案でなくなる時期があると思うんですけれども、今後、このビジョンというものを対外的にどう発表していくのか。そして、これをどのように運用していくのかということも踏まえて、まだ漠然としたところはあるかもしれませんが、その辺、これをどのように活用していきたいのかということも含めて、もう一度、委員の方々がご理解できるように説明していただけますでしょうか。

(小島係長)

まず、進め方としましては、こちらにお示ししておりますとおり、今、市民意見募集がちょうど終わったところになりますけれども、そちらの意見等を踏まえ、令和7年秋頃に、まちづくりビジョンの原案として市会にご報告させていただき、ビジョンとして策定していく流れで今考えております。策定した後は、そのビジョンを踏まえながら、こちらの地区は地権者の皆様がいらっしゃいますので、そういった地権者の皆様とこのビジョンの内容を共有しながら、まちづくりの方向性をどのように進めていくか意見交換しながら、具体的な取組につなげていくといったようなイメージをしているところになります。

(国吉部会長)

多分、このビジョンをつくるということは、山下公園通りの街区で、県民ホールの建て替えとかいろいろ、駐車場になっている場所とか、一番端の旧郵貯会館の街区とか、交差点のところの街区とか、人形の家の隣の街区とか、そういうところも含めて、この地域なりのふさわしい活動を何とか早く誘致してつくり上げていきたいという、そういう市の願望だと思って、それを促進する意味でのプランではないかと。あるいは、山下ふ頭地区なんかも今後変わっていくので、そことの連携とかそういうものもあるのかなと思っているんですが、具体的にこれを実施するに際して、何か企業誘致とか、他のソフト面の仕掛けとか、そういうものもお考えなのか。つまり、企業等を誘致するには、働きかけていくか、向こうが寄ってくるようにするかどちらかなんですけれども、その辺の作戦と、ただ、ビジョンを、骨格の考え方はいいんだけど、これをどうやって推進するのかみたいな戦略とか、経済部局との連携とか、そういうところも含めて何かあるのかどうか、そんなのもちょっと気になるかなんですけれども、その辺はいかがなんでしょうか。

(小島係長)

まちづくりを進める上では、国吉部会長がおっしゃるとおり、どう呼び込んでいくのかというようなところの仕掛けも併せて検討していく必要があるのかなと考えております。正直、今の時点で具体的にどうというものをご提示はできないんですけれども、おっしゃるとおり、具体的な検討を進める中ではそういったところも並行しながら検討を進めていけるといいかなと考えております。

(国吉部会長)

福岡委員、どうぞ。

(福岡委員)

今の流れの中でちょっと分からないことで教えていただきたいのが3ページ目で、青枠の中が建て替えだと思うんですけども、今、山下公園通りに隣接したこれらのプロジェクト、解体は済んでいると書いてあるんですけども、この将来像みたいなものとかが既に進行しているのかどうか。段階的に、喫緊の開発案件とか再整備みたいな話と、もう少し時間をかけて考えられることみたいなものの違いがよく分からなかったの、そこをお聞きしたい。

あとは全体、素案の4-2のほうも見せていただいたんですけども、多分、1章は上位計画との整合で、これは上位計画とのつながりを示せばよくて、2章の歴史もそれなりに書かれていると思ったんですけども、3章の地区の現状と課題のところ、例えば4-2の17ページを見せていただくと、ここに現状の土地利用図が書いてありますよね。なので、現実是这样なっているんだということはこの現状と課題でよく分かるんですけども、それを踏まえた上で、31ページと32ページの間ぐらいですかね、3章の終わりぐらいに、それを踏まえて、各項目別に交通インフラとしてはこういう課題があるんだけど、こういうふうに計画の条件として、条件まではいかないですけども、計画の条件の案としてそういうものを考えていきたいみたいなことが書いていないと、4章から急に、こうなったらいいなという、ちょっと夢的な話になってしまうので、イメージも海外の諸都市のイメージが多いんですけども、そこの間のギャップが結構著しいかなと。もちろん書けないところはあるので以上にとどめておくというところはあると思うんですけども、例えば緑に関して、GREEN空間とか、GREENという言葉がたくさん出てきますけれども、今はどういう緑の課題があつてというのは、(2)の街並み・景観の中とか公共空間のとかに埋もれてしまっていて、どれぐらいの量の緑とか、どれぐらいの脱炭素に資する緑の在り方みたいなものを、街の中で循環を考えていこうみたいな話は4章では出てくるんですけども、この課題のところではちょっと分かりにくかったりします。そこが、完璧な対応は難しいと思うんですけども、素案レベルでもできるだけ条件とか、達成しなきゃいけないことというものを出した上で4章に入っていくことが大事かなと思いました。という上では、この4章のイメージが、なかなか絵で見せるのは難しいと思うんですけども、4-1の29ページの概念図あたりが、水際から見た将来像だったりとか、もう少しふわっとしてでも、こういう街区というものが少しでも写真の代わりに柔らかなイメージで見せていけると、議論も進むのかなと思った次第です。

あとは、前半のハレとケの議論に引きずられるわけではないですけども、かなり水際から人が、クルーズ船なんかで入ってこられたりとか、人の動きも今、多分課題もあるだろうし、ポテンシャルもシーバスを入れていくとかいろいろあると思いますので、そのあたりで、何をこの水際線で達成しようとしていくのかみたいなところが、踏み込んでいくポイントみたいながあると思いますので、そこら辺が課題と将来像のところ、少しづつきちんと連動していくといいかなと思いました。以上です。なので、最初の質問のところだけ教えていただければと思います。

(小島係長)

資料4-1の3ページにございます図の中で、まず、今、福岡委員からありましたとおり、青い囲みがある部分、それは下の写真に載っている部分になりますけれども、一番左の県民ホールにつきましては、7年4月に休館という状況になっておりまして、県民ホールの再整備に向けて県のほうで基本構想の策定に向けた委員会を設けておりまして、そちらの中で県民ホールの今後の在り方とか、そういったような議論をされているところと伺っております。①のホテルモントレについては、今、更地の状態という中で、以前計画があったと伺ってはいるんですけども、今、そういった計画は進んでいない状況で、更地の状況になっているところ、あと、②のホテルメルパルクにつきましても、今、建物が解体された状況になっておりまして、こちらにつきましては、山下ふ頭とも近接していることもありまして、そういったまちづくりの動きに合わせて、今後どういうふうに活用していくかといったところが検討されていると伺っております。

(馬場書記)

ご欠席の委員からご意見を頂いていますので、先にご紹介させていただければと思います。

まず、山家委員からでございます。今回のビジョンについてですが、29ページのところで平面で軸を示しているのですが、それだけではなく、山下公園通りの建物の低層階が開かれており、その先に公園通り、山下公園、海、港があるというつながりを、断面図を用いてビジュアルで示すと分かりやすいのではないかと。また、観光する来街者によるにぎわいづくりの側面が強いですが、このエリアに住むこと、都心で居住する楽しさ、来街者と居住者双方にとってウォークアブルな街であることも示せるとよいのではないかとというご意見を頂いております。

また、中島委員につきましては、山家委員と少しかぶるところがございますけれども、現在の計画

では平面的な構成は理解できるものの、断面の構成を示す資料がない。海から街へと立体的につながり示す必要がある。また、建物のボリュームが街並みに与える影響について踏み込んでいない。平面では高さの関係や街の景観が分かりにくく、曖昧になっているのではないか。山下公園や客船ターミナルからの街並みを見たときに、何が隠れて、どの部分が見えるのかといった基本的な断面構成を示し、空間特性の分析を踏まえた上で、それがまちづくりの基本的なビジョンになり、まちづくりの方針に入れられるとよいのではないか。資料の20ページに示された地区の将来像とまちづくりの方向性について、山下公園通りでは現状このような空間、というのは緑のところなのではけれども、ノースのところなのですが、このような空間は存在していないということで、建物の分析は行われているものの、緑やオープンスペースが現状でどうなっているか示す必要があるということでございます。最後に、これまでの山下公園通りの景観というのは建物によって街並みが形成されてきたが、今後は建物に付随するオープンスペースや緑が歴史的建造物と調和しながら、新しい街並みを生み出すことが想定される。現状の課題・分析をちゃんと明らかにして、それを基に新しい街並みの形成を目指していけるとよいということでご意見を頂いております。以上でございます。

(国吉部会長)

欠席委員からのご意見でした。他の委員、ご意見等いかがでしょうか。鴨下委員。

(鴨下委員)

市民意見の募集ということで、7月4日に終わっていると思うんですが、その市民の意見はどういう形で素案などに反映していただけるのかというのを一つお伺いしたいのと、市民の意見はまだまとめられていないと思うんですが、どういう意見とか、もし聞けるのであれば聞かせていただきたいなど。

あと、まちづくりの方向性ということで、20ページに「子育て世帯をはじめ多世代が自然に触れ、学べる場の創出」とあるんですが、なかなか事業者でこういうことをやっていくのは大変だと思うので、横浜市に先導を切ってもらって山下公園の活用の仕方というのも今後考えていただければ、街と事業者が一体になって良い街ができるんじゃないかなと思いました。山下公園は今、遊具とかも何もなくて、芝生はあるんですが、遊具や遊べる場所、例えば井の頭公園とかはボートに乗れるところがありまして、自然の博物館とかそういうものがありますけれども、そういうものが全くないので、考えてみても面白いのではないかと、勝手ながら思いました。以上です。

(国吉部会長)

三輪委員。

(三輪委員)

私は何となく、今ご説明があったところで、ご指摘もあった断面のことだったりとか、その辺も気にはなるんですが、16ページのまちづくりの方向性というのと、最後に出ている街の概念図のところが、山下公園のこの地区だけのことを指しているんじゃないんだよねとちょっと思っていて、これは意見です。事前説明のときにもお話ししたと思うんですが、1番から6番のまちづくりの方向性が全部ここに盛り込まれるのかなという。全部盛り込まれるのかって、逆に同じトーンで全部来たらすごいごちゃごちゃで息苦しい感じがするとか、この中でどこが力点なのかとか、そもそも多分、最初にあるとおり、山下公園のあの3つの横になっているエリアで強調すべきところがどこで、そこを育てていく部分と、さらに、例えば結節点と言われているところにはもうちょっとこういうものを入れなきゃいけないんだよねという、何となくその書き込みが弱いとか。これは、仮にこのビジョンを持って事業者がここでこういうことをやりたいですというふうにガイドライン的に持ってきたときに、どこでも何でもできそうなガイドラインっぽく見えていて、何かその辺の皆さんのビジョンとか、それこそ市としてどうしたいのかというところがちょっと読み取りづらい、総花的なイメージの印象があります。なので、実際には多分、事業者が相談されてくるときに、ここでこういうことを考えたいんだよねといったときに、この書き方だと否定できないとか、ここじゃないんですよと言いつらい書きぶりになっているので、多分、その辺はもしかしたら、場合によっては別の、それこそ都市デザイン室とかがコンセプトブックとかいろいろつくったりされていると思うんですが、もう少し各論になってきたときには、この部分のどこを、どこの街区ではどこを強調したいのかというところをある程度持っていないと、全部ありになっちゃうとか、その辺がこの小さなエリアで総花的になっている印象をまず一つ受けました。

それから、先ほどの緑のところなんですけれども、これ今、実は多分、元町、山手からも、磯子、こちらのほうに行くとか緑のネットワークが生物系的にはつながっているはずで、山下公園に逆言うとビオトープをつくる必要があるのかちょっと私の中では分からなくて、この絵がすごく引っ張ら

れるんですよ。何というか、この写真のイメージ図が。先ほどからちょっと海外が多いよねとかいろいろあるんですけども、相当これは引っ張られていて、ビオトープが悪いわけではないんですけども、ここにビオトープをつくるイメージなのかなとか、あと、環境教育みたいなもの、もっと言うと横浜は、本当にこのすぐ横のところで始まっていたりやられたりしているので、何度も申し上げますように、ここのエリアでこれを全部やるのかという強弱的なところがちょっと分かりづらいので、その辺をもう少し、この後、事業者が相談に来たときに、若干方向を考え、一緒に協議できるような、それぐらいのスケールも入れておかないと、何でもありな状態に見えてしまって、山下公園のすごくいい、もともとあった歴史的な通りがどうなっちゃうのか、ちょっと不安になる部分もかいま見えます。よろしくお願いします。

(国吉部会長)

真田委員。

(真田委員)

私も総花的というのは本当にそうで、抽象度がかなり高いので反対のしようもないというか、それはいいですよ、でも、じゃあ誰がやるんですかとなったときに全然実現性がないというか、さっきのビオトープの話とかも、これは読む人によっては山下公園をそういうふうにするのかなと思って、それはちょっと歴史的に見て本当にそれが正しいのかなという感じだし、でも、読む人によっては、そういう場所をオープンスペースとして民間事業者につくってくださいみたいなふうにも読めるし、ほかのところは結構、民間事業者に対する話として書いてあったりするので、誰がやるのかみたいなのところもありはつきりしていなくて、なので、こういう場所になったらいいよねというのは、多分みんないいですねと言うと思うんだけど、でも、これ、民間事業者がやることですよと言われたら、え？という感じになるのかなという感じがして、もうちょっと具体的な話に落としたほうがいいのかなという感じはしました。

あと、それに関連する話ですけども、山下公園通りのところも今、いろいろ問題があるというような話で、ウォークابلに変えていくという話をしていますけれども、それをやろうとすると、そもそも交通を変えていかないといけなくて、ここは通過交通をなくすぐらいの勢いで交通を付け替えていくようなことをやらなきゃいけない、そこまでの気持ちで横浜市にあるのかという。そうじゃなければ、ただ何となく歩道をつける、でも、歩道は今、公園側がないから、公園側を削って歩道をつけましたみたいになっちゃうのかなと思ったりとか、自分たちはここまでやるから民間事業者もそれに合わせて頑張ってくれみたいな、もうちょっとやる気というか気迫というか、そういうのを見せたほうがいいんじゃないかなと思いました。

あと、もう少し細かい話でいくと、環境の話が出ていましたけれども、ビオトープの話とかは、さっき言ったように誰がどこでやるのかという話はあるんですが、それ以外に、環境に配慮した持続可能なまちづくりということで、環境に配慮した建物だったり交通の話とかがあるんですけども、それだけではなくて、せっかくこういうビジョンで示すのであれば、公園があるので、そこから来る海の風だったりとか、そういうものがちゃんと町なかのほうに入ってくるような風の通り道をつくりましますとか、もう少し、ここを開発しますとあって、ここにビルの壁ができてしまったら元も子もないので、そういうようなもうちょっと大きい視点の環境の問題というのも入れたほうがいいんじゃないかなと思いました。以上です。

(国吉部会長)

加茂委員。

(加茂委員)

ほかの委員と同じ意見であります。ここに書かれていることは、じゃあ、ここの横浜らしさというか、山下公園のこの景観に対しては何もないという感じがします。うがった見方をすると、あれだけの広い敷地も、これからまた新しくビルを建てるとなったときにかなり高層化というのも予想されていて、そうすると、マリンタワーの横にまた別のタワーが建つみたいな。じゃあ、グリーンをちゃんとしていますよとか、国際的な何かをしていますよとか、そういうようなことで、要は規制の高度地区まで変えてしまうみたいな、そういうことに使われかねないビジョンなんじゃないですかというお話をしました。だから、事業者がどういうふう to これを読み取るかで、やはりそこに全部、この最後にわーっと書かれている6項目ですか、これ、みんなちゃんと対処していますからもっと上にのせていいでしょとか、関内駅前地区みたいな、あのぐらいのボリュームだって建ってしまう可能性もあるということを踏まえると、じゃあ、この山下公園から、海から入ってきたりとか、私たちがそこで昔の横浜らしいという中でまた開発をしていくといったときに、大切にしなければいけないところは

別にあるんじゃないかなと思います。だから、はっきり言ってしまうと、高度規制とか高さ制限とかがないのはどうしてですかというお話をさせていただいたんだけど、例えば、並木があつていい感じの山下公園の写真も載っているし、古い建物と並木の関係とかがあつたりするから、じゃあ、6階とか7階とかそのぐらいの高さはセーブしてくださいね、あとは外壁をちゃんと守ってくださいねとか、マリントワー以上の建物は建てるなどか、今、勝手に言っていますけれども、その現状分析と、何を大切にしないといけないかという、その部分が全く議論の中にないんじゃないですかという、そういう意見です。

(国吉部会長)

加藤委員。

(加藤委員)

産業貿易センターにしょっちゅう行っているものですから、この通りは学生の頃から思い出の通りで、一番最初に横浜そのもので開港というキーワードが出てきて、山下公園通りは開港通りと名前を変えてもいいんじゃないかと思うぐらい思い入れがあります。その中で、学生時代から山下公園でデートしたり、ニューグランドで食事をしたり、その後に裏通りの水町通りでナイトクラブに行ったりいろいろな思い出があるんですが、最近は寂しくて、シルクセンターは本当に老朽化しましたし、私が行っている産業貿易センターも老朽化して、皆さん建て替えようと言っています。県民ホールは建て替えが決まって、知事は早くやりたいのでしょう、芸術性の高いホールをつくりたいということも聞きました。そして、ホテルモントレも壊してこの後どうするんだということになって、その後、国吉部会長の言われましたメルパルクですか、ここも、この人形の家エリア、メルパルク、マリントワー、そして港の見える丘公園までの一帯が、いわゆる47ヘクタールの開発地域に隣接しているところなので、ここ一帯は交通網をどうするかというのが最大だと思うんですね。ですから、この通り沿いが一辺倒ではなくて、このメルパルクから向こう側をちゃんとやらないと、47ヘクタールが生きてこない。何をやるかは別です。

それから、さっき言われた総花的なのはまさしく横浜市だなと思って聞いていたのですが、やはりいい海がずっと臨港パークからウォーターフロントで続いているイメージ。そして、山下公園で緑がずっとあつて、道路のところに歴史的な建造物やいい建物があると。裏にはおしゃれなブティックとかレストランがあつたりして、なんて言うとうそごくイメージが出てくるんですけど、それがなくなるおそれがあるのは、実は横浜の市庁舎の前の関内のセントラル地区がそうだったんです。1991年に、私は青年会議所の理事長をやって、時の市長が高秀さんでした。なられたばかりで、関内を歩いてみませんかということで歩きました。市長に言ったのは、このまま行くと市長、この関内は焼き鳥とか焼き肉屋さん、喫茶店、すてきなレストランとか、料亭とか、そういう文化がなくなってマンションがいっぱいできますよと言ったら、そんなことあるわけないだろうとそのとき言われたんですが、事実そうになってまいりました。それはバブル崩壊後、相続が発生して、地権者がみんな売って、今も関内地区の何割かは東京の方が持っているぐらいですから、あのときにフランスのまちづくりみたいに、2階ぐらいは全部若い人たちに、一般にどんどん補助金を出していろいろなブティックとか食とかをトライできるようなシステムで、住宅をつくるなら100年ぐらい保てるアパートでもつくるとか、そんなことをやったらどうですかなんて言った覚えもあります。やはり方向性を決めておかないとそういうことになるんだろうと。今もそんな危惧があつて、老朽化とか、中には県民ホールのように急いでいるところもあります。

ですから、聞いているとすごく時間軸が読めなくて、一体いつになるのかなというのがあるので、その辺は横浜市のほうで早く方向性を出して、地権者の方々にこういう方向で、よく関内を一丁目一番と言いますが、私はむしろこっちだと思うんですね。ここがザ・横浜ですから、横浜の景観を守って全国にアピールする絶好のチャンス、50年の計を民間と一緒にやりましょうということで早く方向性を出していただいて、具体的なことは後で一つ一つ詰めていくぐらいでいいと思うんです。そこがすごく、今聞いていて皆さん多分同じような考えをしているんじゃないかと思いますので、ちょっとスピード感を急いでいただいて、まとめていっていただきたいと思うんですね。一つ間違えると、駐車場とか裏通りがマンションになります。そうすると、高級なマンションだったらいいんです。これは皮肉でも何でもなくて、元町もそうなんですね。かつて山手に住んでいた方々、それがいつしか変わってきて、今、山手もマンションが随分できましたけれども、非常にそういう景観、横浜らしさ、開港らしさ、異国情緒がどんどんなくなってくるわけです。ですから、その辺の住居環境も含めて、ここに書いてありますけれども、その辺も早く意見統一して、言ってみると時間軸をつくって実行計画ですかね、そこまで進めていただいて、あとはもう、なるべくみんなに任せると。民間の

方々も多分、ここがすごく皆さん大事なものは分かっていますから、恐らく、非常にデザインのいい建物だとか、先ほど言った高さの問題も地区計画がありますけれども、高さのところがなんかも考えてくれるんじゃないかと思います。以上です。

(国吉部会長)

非常に多岐にわたる経験と実感を持って、山下公園通りだけでなく関内も含めた既存の街のスピード感ある取組に対するご期待のご意見だったと思います。鴨下委員。

(鴨下委員)

先ほど質問した市民の意見のところについてお聞かせいただきたいと思います。

(小島係長)

市民意見募集の結果については先週末終わったところなので、今、集計の作業を進めているところになります。ざっと見ている中であった意見としてですけれども、やはり歴史というようなところが一つキーワードになりつつ、新しいものを取り入れつつということで、そこも配慮したようなまちづくりを進めてほしいというような意見ですとか、モビリティみたいなものに関する意見も幾つか散見されたかなというところで、どのような意見があったかしっかり分析しまして、どういったところを反映できるか今後検討していきたいと考えております。

(国吉部会長)

私からも意見を言わせてください。各委員がおっしゃっていたように総花的過ぎるといいますか、やはりどこの都市でも通用するような内容が全部入っているみたいな感じもあったということですね。その辺はもうちょっと整理したほうがいいのではないかと。

実は、かつて山下公園通りの整備のプランをつくったのは40年ぐらい前、私はそのメンバーだったんですけれども、その後、ホテルニューグランドの原会長なんかの賛同を得て、横浜には城下町のようないシンボリックな空間がどこにもないということで、横浜の顔になるところはやはり山下公園通り。かつての居留地の1番地から20番地ですかね。この辺りは、やはり港横浜を代表する地区として、きちんと再構築して売り出していくのが非常に大事だというようなことで、そこにやはり歴史的な価値も含めて、あそこの高架の鉄道も、あれを歩行者ルートとして使うという案もあったんですけれども、地区の方々、原会長はじめ、あれが山下公園通りの街区と山下公園を閉じてしまう壁になっちゃっているし、あの下で暴行事件が起きてホームレスの方がいじめられたり、そんな事件が起こったりしてちょっと暗い雰囲気があったりしたので、本来の臨海公園らしいステータスを取り戻そうとか、それと合わせた山下公園通りの風格をつくることは横浜の顔になって大事なので、それを核に街も発展していこうということでした。その後、みなとみらいができるんですけれども、やはり関内の象徴的空間は港らしさを醸し出す山下公園通り地区だよということ、原さんたちとも連携しながら、ガイドラインから地区計画まで至ったと。そのときの感じとしては、公園に面する街区はやはり横浜を代表するような顔になって、加藤委員からもその辺を重視されたご意見がありましたけれども、そういうことで、でも、今の土地利用がいいのかどうかというのはまた別ですね。将来、そういうものが何なのかというのは検討する必要があると思うんですね。本町通り側はまた別の、本町通りとしてのビジネスとかいろいろながあって、その間の街区が、水町通りに面した街区ですけれども、あそこはそういった両街区の大きな活動をサポートする地区みたいな感じでおしゃれなレストランがあったり、上に気の利いたアパートメントがあって、クリエイター的な人たちが生活するとか、先ほど加藤委員が言ったようなフランスとかパリとか、いろいろなところの街並みのような裏側の街区の使い方とか、そういうことで、サポートする街区。そこではいろいろなものが混在してもいいだろうとか、そういう話もありました。もう一つは、やはり本町通りの街区からも港の眺望が見えるように、山下公園に面したところはあまり高層化はしないと。場合によって、した場合でも、間から抜けて後ろ側から見えるようにするとか、そういうことで、本町通り側は少し高くても場合によってはいいみたいな感じで、街区全体から港へのビューが得られるとか、そんなことも検討して、それも含めて山下公園通り会とは意見が合致していたんですね。車も山下公園通りからは入れないようなことで、裏側の通りから入れるとか、横から入れるとか。

私がもう一つ申し上げたいのは、そういうものをつくってきて広場なんかもつくっていただいたんですが、当時の我々の力量も不足だったんでしょうし、また、民間側の、まだそこまで考え方がなかったんですが、歩行空間と広場の使い方についての認識がまだ足りなかったということで、造形的には美しいんですけれども、あまり利用していないんじゃないかみたいな感じの県民ホール前の広場だったりするわけで、その辺についてはもうちょっと使い方を考えた広場空間のつくり方とかそういうもの、あるいは一部はアトリウムのようにガラス張りであって、今後はやはり地球の温度がどうなっ

てくるかも分からないので、そういったことも踏まえて、広場の使い方は屋内、半屋内なんかのつくり方も含めて大事にしていきたい。ただ、より多くの人がコミュニケーションを取れるような場をたくさんつくっていくというのが、やはり大事な点。私は実は別の都市でも最近似たようなことを議論しているんですけども、そこでもあったのは、やはり一般の市民がふらっと立ち寄ってゆっくり過ごすような場がほとんど自分の街にはないと。そういうものを大事にすべきだというようなことが、その都市の委員会で議論になっておりまして、これからの街の在り方として、来街者向けの顔だけではなく、地域の人がそこで豊かに生活するというような空間でもあってほしいということで、2番目の街区はそういった地域の人たちにもたくさん利用してもらえるように、今でもたくさんすばらしいレストランはまだ残っておりますが、そういうことと、表の街区の広場も、市民の方々に使ってもらえるような、そういう場が必要だと。

今後はやはり、三輪委員なんかの専門家もいらっしゃいますけれども、市民生活が豊かになってくような場が、住宅地だけでなく、こういう表のところでもあるべきだと思うんですね。その辺も付加した生活型の産業とか、そういった活動みたいなものも醸成するような施設づくりとか、そういうものも新しい時代への開拓になるのではないかとということで、その辺が地区の将来像ということでよそ向きの雰囲気はあるんですけども、市民も豊かに生活できるような空間づくりとか、その辺がもうちょっとあってもいいんじゃないかみたいな感じがして2つ言ったわけですけども、過去、続けてきたのが完璧にすばらしいわけではなくて、その辺の反省を踏まえたオープンスペースとか、そういうつくり方に対するメッセージも、豊かに使えるようなメッセージを出すということとか、もうちょっと生活に根差した活動をここでも見せるといいますか、そういう場もつくれないかと。そういうのをもうちょっと横浜も率先して見せていくといいのではないかと思います。

3つ目は、先ほど各委員からあったように的外れの事例もたくさんあって、逆に言うと、これを見た関連の業者がここで何かできるかなと売り込みに来たときにどうするんですかとなったりするので、例えばソウルにソウル路という、自動車専用道路を活用したペDESTリアンデッキがあるんですけども、私はよく知っているんですが、こんなのが突然出てきて、これは何、首都高をやめて歩行者空間にするのかなみたいな、それだったらいいんですけども、それぐらいの、これは見る人によってはそういうイメージも与えるというんですかね。というので、右下ですね。これは実際にあるんですけども、非常にすばらしい、ソウル駅脇の車専用道路をやめて歩行者専用道路にしたんです。立派なんですけれども、これが突然出てくると、どの自動車専用道路が変わるのかなみたいな感じで、やってくれるんだったらいいんですけども、そういう誤解も与えるので、その辺の選択もやったほうがいいかなというような感じがしました。ちょっと多くなりましたけれども、私の意見です。

ほかにはご意見ございますでしょうか。事務局、何かありますでしょうか。

(早田課長)

いろいろご指摘いただきありがとうございます。総じて、総花的だというようはお話があったと思うんですけども、我々も本地区の課題とか特性を踏まえながら、地域の持つポテンシャルはすごく大きいと思うので、それを最大限引き出すことを目的として、理念として、まちづくりの方向性をつくっています。そういった意味から総花的だというような捉えられ方をしたと思うんですけども、今後はスピード感というのが非常に重要だなと思っておりまして、加藤委員にもおっしゃっていただいたと思うんですけども、まず、その方向性を地権者なり周辺住民の方と、市の考え方という形で共有した上で、本当に具体的な都市機能、どういう機能が必要なのかというのを早急に検討してまちづくりを進めていきたいと考えております。

あと、広場の使い方とか、生活に根差した考え方というのは非常に重要だと思っていますので、先ほどのエリアマネジメントの話にもつながってくると思うんですけども、つくだけではなく、つくった広場とか緑地とか、どのように運用していくのか、管理していくのか。それを山下公園も含めてどうやっていくのかということは当然検討していく必要があると思っていますので、そこは今後きちんとやっていきたいと思っています。

(国吉部会長)

この素案に今日の意見はどうやって反映していくか。つまり、素案はこのまま出ていくのか。そうすると、やはりちょっと幾つか、だから、今のご意見を踏まえて何か工夫するのか、その辺はいかがでしょうか。

(早田課長)

先ほど申し上げたとおり、市民意見募集というものをやっております、終わったんですけども、それを反映した形で原案をまとめていきますし、今回頂いた意見も参考にしながら原案という形

でまとめていきたいと考えております。

(国吉部会長)

分かりました。そうすると、原案を市会に報告して、市会で問題ないという、それが確定していくわけですね。

(早田課長)

基本的にはそうです。

(国吉部会長)

分かりました。ですから、その辺について加藤委員もおっしゃっていたように、実効性とスピード感、あるいはあそこらしい工夫というのは、新鮮さが出てこない、あまり食いついてこないかなという感じがあるので、その辺は、秋ぐらいにどうなるか分からないですけれども、市会に報告しちゃうと固まってしまうですね。大丈夫かなと。その辺を、だから、今日の意見も踏まえて、多少工夫された案ができるのかというのがちょっと気になりますけどね。

(早田課長)

どこまで反映できるか分からないですけれども、ビジョンをつくってまちづくりの検討が終わりではないと考えていますので、これからそれをベースに検討の深度化をしていって、その中で市としてもいろいろな考え方というのをつくっていく必要があると思いますので、その中でまた横浜市都市美対策審議会の意見を聴きながら検討を進めていきたいと考えております。

(国吉部会長)

分かりました。ちょっと分かったか分からないようなところもあるんですけど、取りあえず、できるだけ先々に有効なビジョンとして、逆にこれを出したことによって行き詰まらないようにしたほうがいいと思うので、ぜひ少し鋭利に突出して、やり過ぎと思われるぐらいの意見が出て、それで修正していったほうがいいですね。ちょっとおとなし過ぎるかなみたいな感じがするので、ぜひ原案をつくるまでには工夫をお願いしたいと思います。

まとめはそうとしか言いようがないのですが、よろしいでしょうか。この政策検討部会としては、今日言った各意見を全部まとめると難しいところはあるんですけども、いろいろな事例の問題とかは、そんなのはすぐ簡単にできますよね。もう少しエリアごとのイメージが湧くようなことを今後考えていくとか、そういうふうな表現でもいいので、具体的な地域が進めていくとか、時代に合ったニーズを引っ張り出してくるとか、そういったことも踏まえて、まだ足りない部分は先々検討していくというのが見えるようなことでもいいので、そういったのも含めてビジョンとしてもらえれば取りあえずはいいかなと思うので、ぜひその辺をやっていただくということで審議の結論としたいと思います。委員の皆さん、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

(異議なし)

(国吉部会長)

では、そういうことで、今後の検討をよろしくお願いします。

これで4つの報告事項、審議事項を終えました。これで一応、全ての議事が終了したことになります。各議事ごとにそれなりにまとめをやっていったと思うので、一つ一つまとめは行いませんが、よろしくお伝えしたいと思います。では、事務局にお返しします。

(馬場書記)

国吉部会長、ありがとうございます。最後に、簡単にですけれども、それぞれの議事のまとめを確認させていただきたいと思います。議事1と議事2は、議事1は報告でしたけれども、議事2と関連するところになりますのでまとめてお伝えしますと、関内の玄関口としてエリアのコンセプトをしっかり踏まえながら、今回ご報告しました外構計画ですとか広場の使い方、あと、審議となりましたデジタルサイネージ、それぞれが相まってエリア全体の価値を高められるように、広場ですとかデジサイの調整、あとはデジタルサイネージの自主審査、こういうことを含めて進めてほしいというご意見がございました。審議としては了承ということでよろしいでしょうか。

(真田委員)

了承ではなかった気がします。引き続きということです。

(馬場書記)

引き続きですね。分かりました。引き続きなんですけれども、審議の中でありましたように、デジタルサイネージは運用開始後、また改めてこちらの審議会にご報告するということになっておりますので、そのような形でよろしいでしょうか。

(国吉部会長)

デジタルサイネージについては、まだ全体の枠組みですね、課題もあるので、このままずっといくというのはちょっと、我々としてもお任せしますと、何か責任は取れないなみたいな感じがあるので、トライ・アンド・エラーでやってもいいんですけども、どこかでやはり暫定的にスタートして、一斉にやるのではなくて少しセーブしながら、あそこの街にふさわしい在り方を検証しながら進める。そういう時期が2～3年必要で、そこでちゃんと振り返って、ここから先はもう民間企業に任せてもいいとか、時期が来たらそういうふうにするとか、そんなことも含めて、今後やはり検討していったほうがいいなということだったと思います。

(加藤委員)

トライアルはやりますよね。今の、いわゆる映像とかいろいろサイネージのね。何か書いてありましたよね、トライアル期間。それはどのぐらい設けるんですか。要するに、本番に向けて少しシミュレーションしたものをトライアルするじゃないですか。だから今、国吉部会長が言われたように、突然というのではなくて、たしか、さっき見落としたんだけど、トライアル期間どうのこうのと書いてありましたよ。シミュレーション期間と書いてあったのかな。

(真田委員)

やはりハレとケの割合だったりとか、トライアル以前の話かなと私は思うんですけども。

(鴨下委員)

そうでしたか。2年とか3年とか、そんな話も全然出ていないし、最後のまとめで議論をそうやってまとめちゃったりするのは、ちょっと私としては不本意なんですけれども。それで、あれでしたよね、やるという方向で、ハレとケの議論も、今までケとしているところもハレとしてやったから日数が増えてしまったとか、説明は一旦はあったと思うんです。それで、トライ・アンド・エラーでやるという。

(馬場書記)

一応、審議の中では、まず運用をやらせていただいて、やりながらしっかり見直しして、トライ・アンド・エラーという言葉が結構何度か出たかなと思うんですけども、そういうことで、まずはやってみようという。もちろんしっかり見直しはしていく必要があると思うんですけども。

(真田委員)

いや、多分、トライ・アンド・エラーという言葉の意味が、取りあえず今の原案でやってみてという感じなんですけれども、今日出たのも踏まえて少し変えた上でやり始めてというイメージかなと私は思います。

(福岡委員)

多分、意見は2つか3つぐらいに割れていて、全体的に進めなきゃいけないことだとは理解しつつも、その前段にあった外構空間とのバランスとか全体とか、照度とか輝度の規制の話はあまり言わなかったですけども、それをどうやって誰が調整していくのかというところは、まだ宙に浮いたままですよ。あとは、専門委員というのが、事業者が選ぶ委員であれば、本当にそれを中立的にジャッジできるのかというところは解けていないので、そこら辺は適宜報告いただくのか。トライ・アンド・エラーと言いつつも、前の照明のときは、みんなどれぐらいの見え方をするのか、実際、現地に見に行ったりしましたので、どこまでそれをやるかということもあると思うんですけども、そのニュアンスが多分、今、全員は一致していないというところが問題で、それで、これで進めましょう、オーケーということではないんじゃないかということと、まあいいんじゃないかということが多分、微妙に分かれているので、あまり丸くできないかなと思います。

(松井係長)

今日頂いた委員の意見に関しては、それを踏まえた上で、今日ご説明させていただいた内容を修正だとか、あとは具体的な基準だとかをつくる時、または組織をつくる時に、それを踏まえた上で今後、基準または組織の体制をつくっていきたいと考えているところでございます。具体的に、デジタルサイネージを実際に運用してみないと、映してみないと分からない部分というものもあるかなと思っておりますので、そのところについては、今、スケジュールだとかで実際のグランドオープンの前にテスト配信を行うというような形で書いてありますので、その部分で、実際に映したもので例えば明るさがどうなのかとか、そういうものについては確認していきたいと思っております。今、スケジュールを一番下に書かせていただいておりますが、今日頂いた意見を踏まえた上で、つくった基準ですとか運用状況みたいな話と、実際の見え方みたいなところについて、少し横浜市都市美対策審議会のほうにご報告またはご確認いただいてという形で進められたらと思っております。いかがでしょうか。

(国吉部会長)

今、福岡委員もおっしゃったんですけれども、私も発言したんですが、結局、この街区のコンセプトに合った映像活用に本当になっているのかという。だから、スポーツを中心としたイベント告知で没入感を高めるということだけであそこの広場を使っているのか。この街区の企業たちの活動もサポートするような広場の活用とか映像の活用とか、そういうのを踏まえたことはあまり見えてこなかったわけですよ。だから、広場とスタジアムとの関係みたいなところだけが浮かび上がってきて、それはそれでいいので、それで完璧にこの街区はこれでいいのかみたいな。今日のプレゼンにそういうのはなかったし、その辺のことが工夫できるような余地を残すような実験的なプログラムをつくって、だから、ハレの場を少しセーブしておいて、一旦走り出すと既成事実になっちゃって引っ込みがつかなくなってしまうので、少し暫定的な部分と、下で横浜DeNAベイスターズの活動を中心としたものに分けてやっていくとか、その辺の工夫を踏まえたプログラムづくりを検討してもらいたいなと思ったんですけれどもね。今日の意見の中では、その辺を踏まえて組み方を考えると、そんなことはやってくれるのかなというふうに、向こうの方の意見を踏まえて感じたんですけどね。

(松井係長)

広場で行われるイベントに関しては、いろいろなイベントがあるかなと思っているところです。の中で、一番メインというか、今分かっているものを中心に今回例示させていただいたところではありますので、ここに例示しているもの以外の、例えば国吉部会長がおっしゃっていた街区の中のそれ以外の産学連携の話ですとか、イベントもいろいろ、盛り上がりだけのイベントではないイベントもありますよねというようなお話も頂いていたかと思いますので、実際にどういったイベントが行われるのかというのは、これから先、詰めていくような話になります。そのイベントに合わせたデジタルサイネージの使い方または広場の演出の考え方というものはつくっていかうと思っておりますので、その部分も含めて今後詰めていって、こんな形でまずはやっていきたいということを今後、この2月、3月の実際に映像を出したりというようなタイミングのときに、少しご報告させていただくみたいなことができたかなと思っております。

(国吉部会長)

その前に政策検討部会があるのであれば、どんな方向で今検討しているとか、実験的にこういう感じで、だから、今日の議論を踏まえてこういう枠組みで取りあえずスタートしてみるとか、その辺のことも何か報告を頂いたほうがいいかなと思います。

(松井係長)

それでしたら報告を、タイミングを見計らってそのときに、今ここまで進めていますというふうな報告は随時させていただくといった形で、これから先も頂いた意見を基にブラッシュアップはしていきたいと思っておりますので、報告は随時させていただきたいと思えます。

(加茂委員)

ちょっと一言、今のサイネージについて空間的なことについてこれも今までの議論の中にあったと思うんですけれども、今回、サイネージがどちらかというと左寄りに画面があるんですけれども、イベントをやっているときの椅子の配置とかも真ん中のところからどんとみんな見るみたいな、そんなイメージで描かれていたりとか、どちらかというと、駅から降りてきたときにクスノキとかそういうのがあったりして、その位置関係というのはこれでいいんですかという質問です。

(国吉部会長)

取りあえず今日はデジタルサイネージのことだったので、そこについては今のようなご意見で。広場の使い方とかその辺については、全体の運営をどうしていくのかということで、先々やりながら、やはり駅と歩行者の動線をどうするかみたいなことが出てくると思いますので、それはまた検討いただければと思います。

(桂係長)

先ほど福岡委員のおっしゃっていた照明との絡みだとか、ランドスケープの絡みとか使い勝手の話と、今、加茂委員から頂いたところというのは、これまで横浜市都市美対策審議会の中では、あと、照明の話ですかね、かなり議論させていただいてきていて、整合性を持って進めて、ちょっとランドスケープの事業者が帰ってしまったのであれですけれども、個別に議論してきたわけではなくて、景観協議の中でも併せて議論させていただいてきている中で、今回もそういう意味では、サイネージのほうのルールを決めていく中でも輝度の話とかを、夜と昼でちゃんと分けて考えましようとか、そういった議論もさせていただいているので、おおむね頂いた意見のところは実務的にはということで、今日のご説明で十分だったかというのはまた別の議論かと思うんですが、大体のものは議論の中に

てきておりますし、こういった形で解決していきましょうというのが、今日のルールの中に反映されていくという形になっていったと認識しております。

一方で、頂いていたハレとケのギャップみたいなお話とか、我々としてはこの市役所を商業施設というか、今回の旧庁舎街区のまちづくりに資するような形で、つまり、今までケの場所だったのをハレの場所に変えていきましょうというプロジェクトでもあるので、ハレの割合とケの割合というのが、言葉上は確かに通常は8:2とかそういったものだと思っているのですが、できるだけ、特に駅前については盛り上げていってほしいと思っていて、くすのきモールと呼んでいるようなところとか、さらに今回、ランドスケープの中であった再開発街区と呼応していくようなところは、少し使い方を変えていきましょうとか、滞留を多めにしていきたいと思いますというところで、ランドスケープ全体の中でも使い分けていきたいと思いますという議論をしてきているところなので、そこも、何でもかんでも全部がパーティーしてるゼイエーイみたいな場所にはなっていないというところもずっと議論させてきていただいているので、おおむね、次に報告させていただく中で今日頂いたようなところ、疑問点として挙げられたようなところというのはご報告できるのではないかと考えているところです。

ただ、一方で、これは事業的なスケジュールも含めてですけれども、そろそろ動き出していけないとクオリティーの高いものをつくっていく時間がないというような状態もあって、今回この時期にサイネージのルールであるとかをかけさせていただいているところなので、これが次回また審議で、今回は了承じゃないですと言われてしまうと結構つらい状況でもあるので、そこを今のところで少しはっきりさせていただければと思ったのは、次回報告でという都心再生課の話というのは、そんなに無体な感じでもないのかなと認識しているんですけれども、いかがでしょうか。

(国吉部会長)

今日の議事の中で最後のまとめみたいなものでは、今言われたようなことを事業者としてちゃんと本当に考えているかどうかというところは我々の中では完全には見えないので、それはちょっと不安が残ったままという感じになったので、その方向は評価するんですけれども、3月ぐらいにもう走り出して、そこからだと手遅れにならないかというような感じもちょっと。つまり、ハレの意味が一方的にイベントへの没入感みたいなもので割と支配されているようなところがあって、もうちょっとハレについても緩やかなハレというのが多分あるのだろうと思うんだけど、その辺の説明がなかったので、全体としてちょっと不安になったということだと思います。

(株式会社ディー・エヌ・エー)

いろいろコメントを頂いてありがとうございます。まず、ハレとケの割合につきましては、改めて、最後に私も補足させていただいたイメージがありまして、イベント中・前後について没入感を創出するためにデジタルサイネージを置きます、ハレのところはイベントを盛り上げるところが大事ですというお話を何度かさせていただきましたが、鴨下委員からも補足いただいたとおり、ハレの日のイベント中・前後の前の朝の時間については、もともと昨年の8月時点でケの時間にしていたというところもございまして、今回、ハレの日としてカウントしているものの、ケの性質もかなり強い状況かなと認識しております。なので、そのハレの日の朝につきましては、ハレの制作動画が流れる一方で、街区の情報を流していく、また、国際交流に関する情報を流していくなど、スポーツによらない情報を流すことによって、ケ的な要素である居心地のよさというのは創出できるのかなと認識しております。こちらについては、具体的なコンテンツのイメージについてはこれからですが、自主審査組織、また、アドバイザーの方々にアドバイスを頂きながら、ハレの日の朝の在り方については議論して、必要に応じてご報告することはできるのかなと思っています。

あと、広場の使い方につきましては、今回、デジタルサイネージと広場が連動したというところがメインでございましたので、スポーツによる没入感というところをメインでご説明させていただきましたが、広場の使われ方についてはそれぞれ、それ以外にも大小それぞれ考えていますので、そちらについてもまた改めてご説明するのかというところは、できるかと思います。

(桂係長)

スポーツによる没入感という言葉は今回、資料としてつくったのは、サイネージそのものが主役じゃないということをずっと議論させてきていただいていた、広場で起こっていることであるとか、それこそこの再開発街区、旧市庁舎街区で起こっていることをどのようにサイネージで伝えていくかということをお伝えするため、つまり、実際に起こっていることのほうを大事にしようという中で出てきた言葉が没入感という形だったので、スポーツによる没入感と言ってしまうと、確かにスタジアムでやっているものをただ映しているだけみたいな感じのイメージを持たれてしまったかもしれないですけれども、そうではなくて、広場で起こっていることをちゃんとピックアップするための、盛

り上げていくための、増幅していくための装置として考えていきたいと思いますという話をしております。

(馬場書記)

今いろいろ事業者とか都心再生課からも話がありましたけれども、恐らくこの駅前広場、こちらのペーパーで体制をつくっていくこと自体は問題ないのかなとは思いますが、体制をつくっていった中で、例えば照明や全体のコーディネートはどうするのかとか、外構計画と照明の関係がどうなっているのかとか、全体のところをちゃんと見ているのかということもございまして、今回は一応審議としてやらせてもらいつつも、進められるところ、体制づくりとか、そういうものは進めさせていただいて、やはり事業スケジュールというのがありますので、今回は運用開始の前に何月か、そこは調整いたしますけれども、年内ぐらいをめどに一度またお諮りさせていただいて、今日頂いたご意見をできるだけ、今既に対応している部分もあるんですが、今日の資料では多分伝わっていない部分があるのかなと思いますので、そこを改めてお伝えさせていただくと。また、改めて頂いたご意見についてはこうやっていきますというのも伝えていく形でやらせていただきたいと思いますんですが、よろしいでしょうか。

(国吉部会長)

いいですよ。ただ、市庁舎の跡地で事業をやってもらって、この街の価値を高めるようなことをやっていたらいいわけですから、本当にその趣旨に沿って運営がなされているかどうかというのを、それはだから2～3年後に確認して、その組織自体がうまく運営しているのかどうかというのをやはり検証すべきだと思うんですよ。そうでないとなかなか、これでお任せいただいたのでずっと突っ走るとなると、ちょっとまずいのではないかと。その辺の再構築ができるような工夫をちゃんと残しておくことが大事かなと思います。

(加藤委員)

要するに、今回の審議はいいんじゃないのと。だけど、そこに附帯で、2～3年後にチェックしてくださいねと。まずスタートすればということじゃないですか。そうだと思いますよ。だって、横浜市と事業者の4社でちゃんと今の意見もあれますよね。アジャストしたり、これから全部。我々がアジャストするわけじゃないから。だから、意見は意見として述べているから、横浜市が頑張って事業者とやっていたら、それでいいんじゃないですか。ただ、ご心配なされているのは、その後、ずっと突っ走っちゃうとあれだから、2～3年後にチェックを入れたらどうですかと言われてるので、それをちゃんとそこに1項目入れてみればいいんじゃないですかね。やってみないと、照明も分からないですよ。周りのあれも分からない。それから、映像の角度とか全て分かりませんから。だから、それも、僕がさっき言ったトライアルというのはそういう意味で、少しトライアルでやってみて分かると思うんですよ。企業映像だって、ぱーっとここに出してこんなもんだって言えば分かるだろうけれども、ここで今言っても分からないし。そういうことではないでしょうか。

(馬場書記)

真田委員と福岡委員はその形でよろしいですか。

(福岡委員)

僕は年内にもう一回、審議の中できちんと往復して、そこはやはり照明の話と枠組みとか、あと、事業と空間の話がまだ解けていないので、そこはきちんと整理して、みんなが同じ方向を向いた上でということが審議会の意味かなと思いますので、別に自分たちがこうしたいからとかではなくて、やはり公共的な性格がある場所ですので、デジタルサイネージの位置づけだけではなくて、今日の説明の資料がどうしてもサイネージそのものの話だけになっていて、もちろんそれが議論の議題ではあるんですが、街区としてというところで、街の中でも4辺あるわけじゃないですか。あと、ハレとケという言葉がずっと使われてきたわけですが、そこをとらまえてだけ言うわけじゃないですけれども、そこは多分しっかり整理して合意した上で進めないといけないかなと思います。

(真田委員)

動かせるところは動かしていると思うんですが、年内にもう一回というのはもちろんあって、それプラス2～3年後にチェックというのがあるのかなというふうに私は理解しています。それだったらいいと思います。

(馬場書記)

部会長、どうでしょうか。

(国吉部会長)

ですから、実験的にスタートしたいとおっしゃっているんですが、若干不安があるけれどもスタートしていいですよと。だけど、見えないところがあるから、どこかでやはり工夫をし直さみたい

な、そういう余地がないと駄目で、それは事業者だけだとできないと思うんですよ。もうスタートしちゃった組織で。だから、やはりこれは、市とか審議会でもう一回再チェックをして確認するという場をつくっておいてほしいということなんです。よろしいでしょうか。

(馬場書記)

はい。確認する場はもちろんつくっていく必要があると思います。

(国吉部会長)

そういうことを前提にこういうのをスタートしますということを、事業者としても認識してほしいということです。

(馬場書記)

分かりました。認識はもうあれですよ、その辺はよろしいですよ。

(株式会社ディー・エヌ・エー)

十分。はい。

(馬場書記)

分かりました。やはり委員の皆さん全員の考えをそろえようとするとなかなか難しいところはあるかなと思うんですけども、取りあえず一度、何かしらご報告か審議か、そこは考えますが、今回の意見を受けてご報告はさせていただきたいと思います。それは2～3年後とかでなくて、早い時期にやらせていただきたいと思います。準備も進めつつ、並行してやらせていただければと思いますので、よろしくお願いいたします。

あと、議事3についてですね。まちづくり誘導について、エリアマネジメントの話になりますけれども、こちらについてはご報告ということですので、頂いた主な意見としては、まちづくり誘導に当たって、まず、エリアマネジメントの考えでいきますと、福岡委員からは緑量ですとか、脱炭素の取組とか、もう少し条件としているいろいろなものをつくってビジョンを流すような取組というのが重要ではないかというようなお話を頂いております。ほかに、ただ単に地域の人に任せるのではなく、街区のことに踏み込んで提案を促すような仕掛け、条件づくり、こういうものをしっかりやっていく必要があるのではないかと。一方で、大きな団体だけでなく小さな事業者を巻き込めるように取り組んでいくことが大事ではないかと。いずれにしても、地域にどうやって発展させていくかという、そういう視点で取り組んでいくことが大事ではないかというようなご意見を頂いております。

最後に議事4につきましてです。議事4は国吉部会長にまとめを出していただいているんですが、全体的にはやはり総花的過ぎるということと、山下公園らしさというのをもうちょっと出すべきではないかというようなご意見を頂いております。早く方向性を出すべきではないかというようなご意見も頂いております。ですので、今回、素案を出しまして、今後、原案にしていくのですが、そこに対しての工夫をしっかりとやっていくということで、エリアごとのイメージが湧くような、先々ちゃんと検討していきますということが伝わるような工夫をしてほしいということが1点ありました。あともう一つ、事務局のほうからも、もう少し各論になった時点でこの横浜市都市美対策審議会に諮っていくというお話もありましたので、もう少し各論になったときに、三輪委員からだったですかね、コンセプトをもうちょっとつくっていく必要があるのではないかというお話もありましたけれども、ということで、各論になったときにもしっかりと反映していくように取り組んでいってほしいと、そういうご意見だと思います。取りあえずこちらについては、原案にいかに取り込んでいくかということ工夫してほしいということが結論だったかと思います。こちらでよろしいでしょうか。

(異議なし)

(馬場書記)

では、まとめは以上になります。

本日の議事録については、部会長の確認を得た上で閲覧に供することとさせていただきたいと思えます。

部会長から一言、最後によろしいでしょうか。

(国吉部会長)

それでは終わりますけれども、私は横浜市都市美対策審議会の任期が参りましたので、今年度で終わりにしました。今日が最後になります。いろいろ委員の皆様にはご協力いただきましてありがとうございます。今後ともまたよろしくお願いいたします。

ということで、個人的にはまだいろいろお手伝いすることもあるかもしれませんが、横浜のために頑張っていきたいと思えますし、今年から2年間、熊本市から呼ばれて、7月は5回ぐらい委員会とかに行つて、ほとんどめっちゃくちゃに振られてしまって、熊本の中心市街地のにぎわいづくりをどう

	<p>するかという検討に加わっております。横浜市のことも一生懸命勉強しているようです。そういうことで、熊本から刺激を受けながら、また横浜にも持ち帰りたいと思っています。長い間どうもありがとうございました。</p> <p>(馬場書記)</p> <p>あと、今回で委員交代されます鴨下委員、もしよろしければ挨拶をお願いします。</p> <p>(鴨下委員)</p> <p>2年間ですか、大変お世話になりました。市民公募委員ということで、本当に知識がない中、先生方にいろいろ勉強させていただきながらも勝手なことを、市民だからといって、素人だからといって、勝手な意見も申しあげましたけれども、生まれ育った横浜を本当によりよくしていきたいと、自分も主体的に思っておりますし、市にもとても期待しているので、今後とも横浜市のために皆さんご尽力いただきますよう、よろしくお願いします。と、私は何の立場なんだって感じですけども、ありがとうございました。お世話になりました。</p> <p>(馬場書記)</p> <p>鴨下委員、ありがとうございます。</p> <p>3 閉 会</p> <p>(馬場書記)</p> <p>では、これを持ちまして、第38回横浜市都市美対策審議会政策検討部会を閉会いたします。本日はご多忙の中、ご出席いただきありがとうございました。</p>
資 料	<p>次第、委員名簿、第37回議事録</p> <p>【議事1】</p> <p>資料1－1 旧市庁舎街区活用事業における外構計画について（報告）</p> <p>資料1－2 旧市庁舎街区活用事業における外構計画について（報告）</p> <p>【議事2】</p> <p>資料2－1 旧市庁舎街区活用事業における駅前広場とデジタルサイネージの活用について（審議）</p> <p>資料2－2 旧市庁舎街区活用事業における駅前広場とデジタルサイネージの活用について（審議）</p> <p>【議事3】</p> <p>資料3－1 関内駅周辺における今後のまちづくり誘導の検討状況について（報告）</p> <p>【議事4】</p> <p>資料4－1 山下公園通り周辺地区まちづくりビジョン（素案）について</p> <p>資料4－2 山下公園通り周辺地区まちづくりビジョン【素案】</p>
特記事項	<p>・本日の議事録については、部会長が確認する。</p>